現存
名家

俳諧大問六百題

下

問官宇山編輯

現存名家 俳諧大陽六百題

栗菴宇山 編

一事菴史槃 校

七月之部

文月

文月やゆゝしき霧のたち初 安治

文月とりふ雑ゝや右店の灯 吟風

文月や美屋をうつす 楚菜麦 （シナノ） 狩山

文月の灯ゝすゝ木の宮れ 忍山 （イハシヤ）

文月やきゝく水ゝ星のうく 素明

文月や扨ゝ又ゝ山 英ゝ 下サ 兎翁

七夕

七夕や酒程もやゝ度おり カヒ 風谷

七夕やゝ子の行る家のうゝやゝ 大洋 （ノヽヤン）

星合　星合や　笹の葉の　夜風の上　流れ　イヅ　石

星　星合や　夕ゆく　雲の　雲の色　素　川　ウコ　素山

星も　寒　行く　星　乗　星　限る　夜を　待　雲　ちや　二ツ　星　チフヘ　琴　脚

赤の　ふ　ち　雲　影　も　赤　一　星の　雲　サト　遠　蓼

赤　星　や　雲　も　動　ぬ　松の　ふ　シナノ　寒　左

赤　雲　い　た　に　二ツ　ほ　一　信　夕　安房　洲　名

今　宵　ふ　ち　雲　ふ　た　星　乗

鵲　橋　ふ　形　る　橋　も　ふ　た　る　の　雲　山　風

橋　の　橋　ふ　り　も　き　橋　も　形　一　宮　山

天の川　雲　ふ　ゆ　る　ふ　た　橋　ち　り　天　の　川　ヒメシロ　乗　五

秋　を　待　ふ　ち　り　待　ち　ち　り　待　や　ふ　た　川　山　風

一

池　雲　の　橋　の　ち　め　た　し　め　や　ふ　た　川　カヒ　白　体

と　絶　た　た　や　行　く　雲　人　係　た　て　天　の　川　エチコ　旭　舟

た　ふ　た　き　た　や　深　し　き　て　た　川　上サ　計　法

仰　き　ふ　る　影　の　雲　ち　て　の　川　ウツ　折　下

月　入　て　た　つ　き　り　し　ふ　り　た　れ　川　、　畏　候

水　流　り　流　れ　る　影　と　流　れ　た　川　下サ　影　翁

白　雲　の　橋　と　流　り　た　り　て　天　の　川　トタチ　坐　憶

流　系　の　去　流　り　と　天　て　あ　た　れ　川　末　川

係　き　て　ハ　雲　と　あ　た　れ　川　信濃　和　女

明　る　と　て　末　も　流　て　の　川　、　柔　茅

世　や　形　形　一　は　た　れ　川　、　寧　左

世　や　形　形　は　変　て　流　も　て　の　流　サヌミ　柄　寿

流　て　れ　て　お　遠　流　て　れ　て　あ　た　れ　川

日入て暑もわすれ行き秋
関も出もさせぬ秋の行り天の川　外
　　宇山

貸小袖　新新の色も深て冬小袖　ハラマ　蕎麦
　　孤山

立琴　立琴の糸のゆるみや寒しめる　上サ和　琴
　　左
　　色琴よ通ふもゆつて　秋の風　泡
　　琴

硯洗　川風や硯洗ひの新きき　三千守
　　石

迎鐘　墨の乾出るや硯の洗ひ　カヒ　仏
　　書て又よ不動硯も洗ひたき　シナノ　重
　　迎い鐘作り終り義の奥の秋　山
　　をそそ古ろ鐘つて　迎ひ　竹
　　風

迎火　迎火や陣新しく　秋く作る
　　迎火や叶ふ先雨もそそろ　下毛十三　雄
　　宇山

魂祭　新男ふ〳〵八愛れ　魂祭
　　秋色人よきはもはけもの　きい　董
　　部

魂棚　相撲とりも初ふ新　魂祭
　　魂棚や己ふ所のそれそ　ミカン　墨
　　百

　　魂なわや　今一夜　カヒ　吸
　　古

　　魂柳や　はそ〳〵きく　結へ
　　竹

　　魂棚の　偶や陣の結ひ　サカミ　末
　　良

　　魂なれも　紙さうの外を河も　バヨタテ　中
　　乃

生身魂　生身魂　仏ふも人ふ〳〵　イヤシロ　源
　　宇

　　イヤシロ　俳
　　源

　　カヒ　末
　　竹

　　イヤシロ　蓮
　　竹

刺鯖

兎も角も世にながらへて生身魂　上サ 素名
米の賀の催しすなる生身魂　雪洲
刺鯖や不沙汰もわびし孫手拭　イワ 蓮水
刺鯖や餅も一折そえて来る　ウコ 月帆

蓮飯

蓮飯のめし盛投し流す箸　ミカハ 蓬宇
蓮めしや供やりとしも仰ぐ露　きね 可然
清しくの花も白いすまして蓮の飯　採芝女
露くさも枯れぬその折蓮の飯　紫山

棚經

棚経や寺の自腸も見さりけり　蓮水
棚経の家々や香き新しけり　可然

苧殻箸

苧殻箸とりて指えてもはかなき　上サ 仁里
妻や子の祀りし箸にて苧殻箸　上毛 乙瓢

草市

草市や常住ものを売りにけり　上サ 一佐
草市や人に買はる人の手　寧左
草市の折よき物のくれけれ　イワ 桂峯
草市や見ぬ物の売れ手一枝へ　三千守

鼠尾草

鼠尾草にそゝぎかけるや一ト雫　ミノ 益庭
鼠尾草に露滴く根津の子家　卜早
鼠尾草を売る手も露の雫かな　孤兄
鼠尾草や昔見しまゝに挿されし　サガミ 芝蝶
鼠尾草や水に移きぬ月の露　カヒ 文風

摂待

摂待や笠を背に負ふ旅姿　きね 歌雁
摂待や親子の時も松の清ら　可然

門茶

人きかふ人の来るゝ門茶かな　大坂 小宛

八重薄荷ゝ有るも門葉ゝ外
作ゝ家の業ゝ出ゝ葉ゝ
出ゝ作ゝ人も沢ゝ多の月　荷亭
子供ゝよやゝ子供ゝ多の月　竹良
寝ゝ作ゝ寝ゝ出ゝ更ゝ多の月　弁シ　翠嵐
芝居ゝ行ゝ子ゝ出ゝ盆の月　カヒ　朱園
人家ゝ行ゝ人家ゝ盆の月　ウコ　丹保
き忘ゝ行ゝ忘ゝ多の月　咲松
燈籠
燈籠もめゝ変燈や十五日　弱丸
門ゝ出ゝ根ゝ燈籠ゝ　シナ　淡雪
灯の入ゝ出ゝ入ゝ灯ゝ燈籠　ミカハ　雨亭
秋多の影ゝ作ゝ燈籠ゝ　竹仙

盆の月

祖原　ヨハ
たゝ代女

来ゝ行ゝ人の町細ゝ入る燈籠ゝ　星影
燈籠の明ゝ来ゝ来の人　素明
相の峰ゝ入ゝ透ゝ星の燈籠ゝ　ヨハマ　清峰
消ゝ行ゝ入ゝ家ゝ燈籠ゝ　カヒ　小代
ゝ入ゝ行ゝ人ゝ多きゝ入ゝ　美紅
町ゝ家のゝ燈籠ゝ　ウコ　一茶
子雀ゝ家ゝ庭の明ゝ燈籠ゝ　きは　遂伸
燈籠や白きゝ家の燈籠ゝ　上サ　仁里
燈籠のゝ家ゝ入ゝ行ゝ入ゝ　宇山
大文字
大文字のゝ入ゝ家ゝ行ゝ入ゝ　ヨル　杜農
大文字やゝ作ゝ村ゝ又ゝ入ゝ
大文字や雨ゝ入ゝ入ゝ　村　荷亭

躍

法士うるめ袖も推るまでなり　等栽

四五人でおるまで―むる酒の肴　イハキ　老許

交る杯も手ぬ酒の杯毎なれ　きに　松廷

出て丈の人酒場を吸き　小タル　二林

酒を杯て象の種である酒　外

飯毎出て出ぬ出ぬ酒の肴　ホウキ　新月

をとをとも出ぬ出ぬ主所外　琴題

けらくと経木流所や格のえ　梅女

うの出潮人此所生ある経木外　一泡

けの赤を井のえて所生経木えれ　仁里

春雨でしを吸ふまでむや不二詣　義寺

ちちよを重嘉ちち―不二詣　卜早

経木流

不二詣

いでをでて言葉少―不二詣　梅女

雨でをを手紙できでうり不二詣　ホウキ　白氣

引抜る新雨言―不二詣　煙東

土用

出る雨の汚れて不用の那　イシ　孤山

雨でう雨土用の数を洗でうを　梅女

土用干

置えでて陽でめでを土用干　きに　我庭

出で竹の樓でしでうり土用干　サカミ　柳古

明のあでうり古き世でを土用干　卜早

氷室

竹でうをいでぬ月りや氷室　走れ

明春の京でも梅ぬ　れ室　派先

夏氷

陸海でを人の馳走や　夏　氷　ケヤシ　梅愛

思でうを氷の彫や　氷　夏　下サ　嘉雄

水麦時を男うり仰うりて
日の白よ影や猫さう麦水 氏兄
居まりて又うるまるや夏祖
笑天を合点新まり畑仕事 西亭
笑てうと新もせまる柳うれ ト早
笑てうや五あのうちの世の 静 エチコ魚ウ
笑てやなうまるまの強より形 を祇
日盛の気やうけてくれの池 ルタル射れ
山皆なやは寄ちね隠をれ ミカハ一のわ
は寄や 仮沿して居ち男 フセン月窓
は寄や 鈴き不二の山 シナノ千葉

雲の峰

日寄やは呆然もかき合ひ 安孫
散うれて月のさうや雲の峰 但原
偏ぜて白波や雲れ峰 スハラ素兄
川舟の後てかうを雲の峰 エチコ旭羽
気彩よ風もうくるれ雲のよ 氏兄
陸奥の松り雨ふや雲れ峰 モリ江閑雲
山ぜうつや雲て雲の峰 上せ子奈
峰うかうの白きや夏又山 カヒ南山
きのよ又うるふ又雲の峰 宇山
地深く沼の雲も形 風蓋 ヨコハマ貝峰
浮出て風うきうや池の魚 氏兄
出しぬて社命うう風の蓋うて 下元苦川

風薫

イレ山桜の元ちるや風うきる　櫟樹（リクセン）
新蕊や結ぶ人酒のむ風のきる　旭月
涼しさや考る人居る能舞臺　上元　乙鼎
意安や枝ぶり涼しき竹の影　ウコ　帰来
夕涼や舟うらゝ和辺むこ打消光　素四
涼しさや孫を抱て箸とる吐君猶　ハナシ　一時
涼を乗よ山涼しき月と郭　上元　乙美
涼しさ酒すゝしく殺て病うるを　大坂　安人
涼しさをおうあ山夕を呼はら　上サ　亀友
涼しさを又ゆるや蓮の葉ゝ打ら　ウコ　芋泉
すゝしさや古沼ゆゝけよ夕月　カヒ　芹甫
山影山も動きて風きゝ　エチコ　於月

きゝしさを産まを夏の夕氣　ミカハ　清耳
涼しさや風れの音　上サ　由崖
又ゆゝち苦うゝゝ山の出涼　シナノ　雅山
すゝしさや二ツを清るまゆ　きは　貞義
涼しさも風抜よ月涼し　ウコ　竹場
涼しさや深き引辺竹の屋　ヲヽ　光許
すゝしさや昭よも耳もも紀川　ヲヽ　一石
きゝしさや蝉の竹の竹のゝゝ　マンコ　雲外
きゝしさの昭ゆゝ自産の神ゝ　上もち　ちせ女
涼しさや石ゝ稿ゝ　稿のゝ　又盛
涼しさや夕れ波のぬき子屋　ハコテ　万涼
返しゝ自は水きゝ涼し樹の影　定盛

納涼

すゝしさの味甚深し　置座九　宇山

納涼々々新しく形りし　俳諧　杵堆

蓑笠の形ちやめや　建の門納涼　湖風（ミヨガ）

まめ笠をうる物新又きりつゝ夕納涼　一川（サト）

新をきゝ山のゆふりや門納涼　、癸山

格子やそよ〳〵き松を吹こゝさ　活足

大くさを新く人なり格すゝ　枠洲（ヒリ丘）

相手次の波をすゝうれ　魚弓

笠の蓑つゝ浪を納涼れ　万風（フンコ）

生てゐる魚買よ市の吉〳〵　二休

小門ゆきに門の吉〳〵の形　吏梁

あんかもも書き蓑の形一門納涼　宇山

納涼臺

新く置うるや夏のすゝ　壽竹良

ゐる人と寝る相談や吉〳〵臺　四友

おゝ門ゆ立ちも年やすゝ蓑　遠蔭

月を月くまでもやすゝ藤や納涼臺　十花

松のよきを蓑移やしく寸むら　巢二（ウツ）

ちからより寝て新ゝ寸むら　一門（ニヲ）

青東風や吉〳〵き　狸　き

青東風や吉〳〵の生ゐも形く　枠　松（カト）

青嵐

人吉〳〵き町の口外や吉〳〵　角〳〵（ムサシ）

大宮司の金吹や吉〳〵　香羅

吉門〳〵京の色吉〳〵　金羅

蓑一羽四〳〵吹蓑て書門〳〵　活足

素門　素門

船頭の棧橋新川書巻
竹柳や掛け棧橋書巻

夕立

暑置て夕立一走り
夕立を走る子樹の戦き　月表
夕立や傘けのぬるる坂　五新
夕立も走る水の流れ　上サ竹長
夕立やうつ〜戦ふ雷　カヒ寿残
夕立や川を渡る時　ミナノ寒洲
走り降る夕立窓を白い雲　不朽
夕立走る生垣を吹く　佐兄
降る風と共も乱れ　宇山
糸水や風も躍を洗ふ象　卜早
夕立　ウコ千之　ホウキ新月

泉

井渡

井渡や絵の中を行く砂の中　ミノ唯石
〜〜井戸ちら〜水と移る月　イヘシロ一尾
〜〜井戸月の影を抱く井　桐山

打水

打水や先手に赤い風の来る　作母
水打て〜〜みれば〜瓜の匂ふ　寒左
打水や机掛け一本の戦き　ウコ止苦
水〜匂ふや板も度好の訪と　安東丈
打水や〜〜〜〜〜〜夕匂ふ　ニヤ枕
板〜〜匂ふ青の匂ふ〜匂ふ　呉仙
〜〜〜〜出て葉を赤〜匂ふ　リセン北山
揚も〜〜〜〜〜〜〜〜　半拙
降の赤い〜〜〜〜匂ふ　寒左

清水

雲はけて あつき山路の 清水かな　ムサシ 葉崩

たゝもとめて 忘れけん 山しみづ　延昌

渓にある 樹も巻て 汲清水かな　サト 素氏

人のいふても 清きこゝろや 岩清水　古水

松影に 那しらの出来る 清水かな　巴御

明るくも 湧やうかね 清水かな　ミカハ 金風

偽の 小祠みせし 菅しみづ　蕗夕

清水まで 来る納涼や 夜るの月　フシコ 鮮言

涼しさに 汲ては崩れて 月の影　己東

人の手へも あるべき 流れ 清水かな　ハシロ 秀舟

青き葉を 散らして汲 清水かな　低兄

筆の清水 所にも 見えて 清水かな　素竹

旅人の 起行て 遅し 清水かな　ハシロ 一羽

書るかゝと 枝に 汲て 湧清水　カヒ 未圃

流れ出て 蓋の口しれる 清水かな　雛山

手に汲めば ふさぐ 青の こゝろかな　乙瓢

秋坂をおりて 来る 清水かな　ハシロ 壮山

よき衣の 人も来て汲 しみづかな　宗山

川狩

川狩や 三人寄りし 水ぎはの　仁里

川狩を 取まいて 来るや 畑の人　下サ 甚雄

川狩や 付て来る 子の 嘆くる　フシコ 只川

金魚

松影や 水に見えて 居る 金魚売　吟風

重さうに 運ぶ 腹も 弱る 金魚かな　低兄

金魚にも まさる 竹 勤めや 笹売　弘美

暑

暑きより到てや山もしつる形。
暑いとまゆ山ゆ裏むし　影他
暑さも暑さ拭ふ物　西京英
砌の利く料理をみの虫暑　ヤと玉蘭
睡ることも格尺て居る暑の邪　一高
暑きりを飽あり山高の住居　リク中湖仙
繋うなくく牛おそいやる暑う邪　上井山月
夜敷の時もこうこう行きられ　カと吐糸
出るもこの石も邪て枝暑き　末山
樹の影の出来も暑きもの外　スルカ星
柳さも又ゆゝ暑きの涼さり邪　リク中美敷雄
子仰のはもこゆる暑う邪　浪兄

十一

かすりの帯こまきる暑う邪　ウコ祖河
又翌りの暑を清こ工先う邪　サキ末川
起されて涼きの暑さ涼う邪　乙瓢
行ちも友を移一枚浴　書豆
蹄ちて思ひ付り一枚浴　カコ月都
甘酒や巧作きこまうの秋を　ミカ浪古
子移こもり移ても一枚浴　宇山
夏坐敷、
夏坐きこ者もこまうこりて　乙瓢
度仏杖の秋を形りて友味き　サカミ禁友
葉ちの外をの邪　黄吐変　魚口
夏扇こ涼ちの巧ぬ黄吐き　浪兄
毎晩ちアこて無形友吐変　カと文袋

晝寢　竹良

書筆こ休憩ひて屋森りれ　三ヵ月　汲古

百色又語うぬ　ゴミ　信人

昼の宮も身を休まる屋森小　キロ　舞中

子う実へ熟て及ぶ屋森小　寥湖

乘て〳〵　孤兄

竹小を計を又郭を吹る郭　竹良

相草火の灰も崩きれ屋森れ　カヒ　白鱗

抱籠　於籠や淳〻美の国り　エミ　有佳

於籠や　枝竹の窓の風吹き　イヅ　甘秀

於列て籠と異まれ移きめれ　乃丸

籠枕　多の下陰風竹り　籠きく　秀素

竹婦人

籠く節う風竹吹き籠きく　石

誰う去てもゆ〻ふ那　籠枕　宇山

奥内へ行く竹婦人　素山

竹り枕不圓碁も実て竹婦人　昭風

隠きへき森風もきて竹婦人　杜葵

子を立てる失婦の中や竹婦人　深坪

きぬ〻れ枕りう竹婦人　ミヨ　すき女

於列て秋竹　枕竹り竹婦人　秀素

打〻　屋の吉う色竹婦人　ニヤ　冬老

重竹て小さ月久せん竹婦人　ニヤコ　すく女

屋天て吉き星き立の〻竹婦人　旭洲

竹婦人森光吉く吹き　洲古

汗

夏痩

[illegible]の枝を誘ひ伝はる人竹妙人　竹良
[illegible]て[illegible]も吸ふ竹妙人　琴聰
[illegible]を考へての[illegible]や竹妙人　浪兄
[illegible]美一竹妙人　史葉
船待や小さ浸して汗拭ひ　幸拙
涼りて汗を[illegible]て板庇の[illegible]　浪兄
夏痩や風呂の[illegible]　吟風
夏痩れ竹も[illegible]て義[illegible]り　寒洲
夏痩や鏡を[illegible]　梅女
夏痩と人[illegible]いまして笑[illegible]　浪兄
夏痩の[illegible]や芋の青[illegible]り　佐和女
夏痩を好す[illegible]　仁望

青田

取[illegible]山も[illegible]れ青田の郭　羊山
[illegible]も犯る青田の郭　乙瓢
[illegible]ば[illegible]青田の西　一洲
青む田や細き川[illegible]の節　升清
園の名[illegible]青田に　来軒
雨おし[illegible]て[illegible]ぬ青田の[illegible]　帝白
森[illegible]青田に　梅里
風[illegible]の青田に　紫隠
足[illegible]の[illegible]の青田の郭　寒洲
森[illegible]青田に　小系
[illegible]て[illegible]青田に　佳芳
[illegible]入て[illegible]青田に　不杉

三日月細江村百姓うれ　きしの十郎
新し村百姓うれ　／　宇山
味噌付き　鈴ね　新御田　寒左
株付の唄　もらうもや　田植
新しうもうもの　生きの　田植うれ　上州　源和
夕顔
夕新や　彼る者を　法さ門　ヌリ　新愛
夕新や　新しうう　養て　新白き　三ノ　南陽
夕新や　とうもせね　古　厩　イヤニハ　葉　寒左
夕新の　吟う　養う　うき
夕新や　古うう　植の　ふき　薄　柳女
夕新の　柳しうう　植や　蒔の　サヤニ　明　花
夕新の　新しう　味つや　油　麦　大坂　波路

田草取

夕新や　新麦　詰うう　一　形うめ　表　植
夕新や　角ふ　法ふ　牛の　粮　法中
夕新や　谷ふの　面白の　演　法き　魚ヒ
麦うの　作ふ　ふふ　ぬ　川ふ　ぬ　涼　坪
旋花
ひうう　社　吟や　むうの　巡　一　照　法中
麦新の　面ふ　植うう　蒔うう　有　薄
鷺草
詰うの　外う　花ひき　干　陽　外　吟　風
詰うう　多や　五尺の　庭も　新の　うち　寒左
時計草
蒔の　形き　望　社ふ　ふ　時計　子　ウコ　唱月
新　時の　表も　立て　時計　子　ぬ　竹
月の　表て　ひ　形や　うう　時計　子　之　引
吟て　うう　社ふ　うう　時計　子　不　形

麻

蓮

秋ちかくなる夏のうつり――橋・麻　高麦
庚郊く咲きそめ――秩父山　伊兄
來移る外も過ぎてさびさび麻　宮山
静さや法のみちびく蓮の道　小山
朱合く一夜のうちにとる蓮又れ　壮山
咲くらくる手を降ぬる蓮の花　伊兄
降る和もも一粒降るや蓮の雨　ミカ行経
蓮の月を生ずるうち蓮又れ　福夕
蓮の蓮　蓮の蓮　匂ひを蓮ちり　鶴翁
蓮うち和の咲のうち　伊の一ちり　ウコ波
蓮すしー蓮蓮蓮蓮る雨　ヌリ少
蓮咲き　蓮れ　蓮や　蓮の蓮　まる女

瓜

咲きも少てうせしき蓮又れ　表橋
散ちかうつ又又ちかや蓮の蓮　蓮の女
蓮咲や和うち　蓮の蓮　粕知
蓮小蓮まる人もたれ蓮の蓮　上サ切
蓮醤油も瓜又和や　瓜　呼　仁蓮
庭丁もとうる作ーて生来瓜　の
竹も新うちせしかや作ーー瓜　ウツ橋得
咲ちたもせるもひと生来瓜　め法
海苔の戸の汐本ちうる生来瓜　ト早
まちうちかや葉ちて瓜の作ちうち　生梨
瓜作ちう作ーー忘れて　れ　きひ　宮山
象をうちうちや月初の百日紅　吹瓜

百日紅

[illegible]

竹の皮

火取虫

毛虫

心太

水有

沖鱠

葛水

蔦かや　笠の緒をとふ　禅尼　仁星
蔦かや　枝末好しとは　好時　立秋
蔦山や　叶ひ　新意　霞移
蔦山や　ふとき　好時　空　沼元

八月之部

立秋

秋立や　あるかなきか　野の角　月高
秋立や　子本のゆきも　咲ぬ　月袁
立秋も　彩日　二日　万　那　亜前
枝村や　秋立　二岩　子　吟風
秋もまや　立　袁　仲長
立秋のきれ　蒲　古　れ　カと　怪池

秋立や　矢さしら浦の　波　下サ　彩翁
立秋や　笠　ふ　百　魯生
立秋を　志　や　扉戸の　白　下ル　琴夕
さまざまに　秋　多　原　れ　カミ　文古
秋立や　笑　れ　光　白　俳
秋立や　原の　風の　後　八ツ　弦　生
立秋も　墨　秋　水の　色　耕石
古くらよき　味や　秋立　波　松露
秋立　氷　塔　ん　水　仲舎
秋立や　板の　海の　夜　ト　夏雨
門ま　竹の　天　秋立　夏　キ　夏筱
秋立く　う　ち　夏ゆ　や　ま　山　サ　五彩

初秋

初秋や蕎麦の花の咲き初め　宇山
初秋の雲の小笹の長き影　其峰
初秋やうつし篠を入れる苔の風　竹舎
初秋の雲も立つや浦の山　沙風
初秋の影うつる川の水　半仙
初秋やうつの機織の音さまし　霜夕
初秋と赤もやふるしれぬ味　竹良
初秋や川中廣く立つし　蕎子
初秋を誘引する蕎の面　耕雲
初秋を知る厚板の井戸の鮮　沙風
田をうつる秋の初風吹くなり　一の源
初秋の安きぢやは屋のうち　翠

今朝秋

初秋の垂れ敷きあり蜘蛛の糸　宇山
数屋ハ古く夜の寒ふる秋　号笠
うつれる柱時計　一　今朝の秋　竹舎
栄蕎麦味ある秋　一の水
々影の雲ふし　めて秋のうつき水　義亭
桐の葉の葉ゆゆや々影の秋　月窓
れを伝ふ板を流れ今朝の秋　寒左
折ふる先明の竹々今朝の秋　月、野
蕎麦も茹て味ふる秋　宋蕎
ふ影うつる壁ふきうつき水　大坂湖水
味ふる京の影　譜ふる墨の影　楼五
森ふるの京のふる秋墨　二寿

残暑

[illegible]　竹舎

[illegible]　コヤシの影

[illegible]　カヒ吐泉

[illegible]　スルカ星暁

[illegible]　清兄

[illegible]　宇山

秋暑

[illegible]　畑　昭風

[illegible]　竹良

初涼

[illegible]　畑　きよ秋峰

[illegible]　麻

花火

[illegible]　露圭

[illegible]　下サ花枝

[illegible]　芳笠

[illegible]　竹良

[illegible]　ト早

江白山の[illegible]　サキ亀月

[illegible]　カヒ夕窓

[illegible]　琴糸

一二本[illegible]　ビサ清江

[illegible]　ムサシ吉豊

人も[illegible]　フシツ彩長

[illegible]　ヲミ彩他

[illegible]　清兄

[illegible]　ムタ清山

[illegible]　弘美

稲妻

ふくれしと月釣持し芭か那　宗山

稲妻のさしむころのや薮のおく　（スルガ）羔寿

稲妻やきれ切りしける猿か嘘　竹良

雲は黒く稲妻落ちて出ぬけり　半拙

稲妻や月の出しほとこ入さまり　佛拙

稲妻の南木発くさはし松の声　（イハシロ）社良

稲妻や波と川との出合船　（シナノ）風篠

稲妻よ身を捨ちまし深る魚　（サカミ）正甫

稲妻や星ハ静り日は暮る　朝宇

稲妻やちらりと見えし向ふ岸　（下サ）風兼

稲妻の後ふさぎまし表の限　一洸

稲妻の稲捨させける屏風かな　（上サ）米石

稲光

稲妻や人驚かす芦の穂　里子

稲妻の其跡を清る光かな　雅兄

稲妻のこし少ゆかりや竹筏　竹舎

稲妻や風も添寺ヽ水明り　魯堂

稲妻や行向く新しし数ぞる　（ミノ）葛汲

稲妻や立寄合のすきし跡　史築

吹風の中く清きしめるる稲光　（喜）可発

水底を滑りて来る稲光　對几

露

露咲きこぼりや芦やしき　素石

根際や四五尺余て露明り　金羅

露の玉夜漏れして出来ぬる　（ミノ八）梅一

秋之道露や秋の月白し　（サト）可水

有明もうれしき露の戸口哉　モリ丘 芳洲
露のゆかり詠む静さ夢くらし　ウコ 二条
露とのみふよきこその身なりしかの庵　月静
白露を見染めて宿も成りにけり　下毛 芳川
寄りし稜も不足もなしに露の結　寒左
葉より葉へ光りや残す玉の露　ミチノ 棕櫚
静かなるのみきりや露の玉　一流
ゆかしく飯椀にも落し露の魂　万条
ひきつる杖おとも露拾ふ集めけれ　素明
露の月小振り雲吹れけり里　十光
おもしろや祈にすいしき露の光かれ　呂山
草がくれ露そよりてそよそよの経　日光 五とく

霧

臼ちゝる声に志かれて鐘の霧　静翁
置霧や一粒消して移る雲　竹舍
起きし霧や草をすさびにけしき　エチゴ まさ女
鐘は霧にしほまる静寂かな　泪兄
仲切く竹のふしまで霧の末　之引
うるさしきのまなりや霧の鐘かな　佛坊
鐘霧や船路出てゆる岸に立　半仙
草の戸や立居りなかも霧吹き　旭荷
霧をかくるおくつき消し霧かれ　一守
わかれのしくわめて霧の海　イハシロ 芸山
霧晴て小さく成りぬ鴨の湖　佛跡
鐘霧や晴て竹影の寒く移る　文乾

初嵐

川霧や傳の きき 四の京　經東

きりぎりす 霧の 降 の 移の 栗　舟シ 羽山

浦人の 樓 裏 ちらし まつ 坊　ヌリ 素坊

ものすさを 吹 ぬ 風 よ 以 ら 初 あ ら　芳湖

鄙 を 家 ゆ 作 ら 初 坊　モリた 霧雫

仏 家 の く 栗 は く 家 を ハ 初 坊　魚 ヒ

家 ら 風 の て 蓑 ら ま つ 市 ら　竹 仙

新 く 散 翠 の 夢 や さ ら 坊　下サ 光 梓

ま く 伸 き 家 末 も 坊 る 初 坊　十 ヒ

板 ま の ら 面 と 誘 ら や 初 嵐　史 葉

わ く 桑 の 家 ら 秋 の 風　ハルカ 乙 表

秋風

ちらちらと 家 末 を 吹 く 秋 の 風　ら ら 女

き ぬ 写 る 秋 と 白 髪 や 秋 の 風　きしの 十 湖

ら ら 地 く 吹 き 秋 ら や 秋 の 風　月 新

一 株 の 芋 ら ら や 乃 き 秋 る 亀　ウ 一 拙

ら ら 秋 き ち 秋 山 寺 秋 の 風　窓 性

き ら く 対 ま 吹 ら ら 秋 秋 る 也　ま 湖

秋 ら せ ら ら ら く 赤 ー 元 ら ー　さ く 女

四 秋 き ー ぬ 山 ら 吹 て あ ま 秋 風　サカミ 啄 洲

家 の 後 秋 の 初 せ 起 り ら ら　亀 の 重

町 へ あ て 又 ら も 吹 那 ら 秋 の 風　ハ三ヒ 十 綱

麻 畑 の 中 ら 吹 ぬ あ ま れ の 影　二 休

月 隠 き ら き ら ひ り 秋 の 風　英 ヒ

奇疫の字を以て名付ける所の柳長（上サ）
ひしと云ふの字を以て姓の風、平山
秋子哉や 奉味よき桜の遠かゝる 上毛 於笠
竹伐至しまを見るとも秋かゝる 泉州 一
枝を見るに付て日暮れ方の風 於江
好風の言葉や奇語よりも末後より 不於
数を生の言葉や秋の風 柳仙
秋子哉や 等を拾き拾ふ 史聚
又見の花と言ひて行くとも 大坂 浪笑
おもしろい出き忘れや 川面の
百言 所を見ける ゆく 丁れ
忘れても奇せぬ所 れ イ甘 雲 史聚

忘扇

置扇

人の言ひて忘れ所一 字山
書きしも後と置き所 れ 常笠
所望 初や不おしも言の沙汰 平ノ 拾月
和上しく奇の沙汰 置 所 三子吉
拾ひて未練も残るや 拾 所 拾女
残りて置き所 所 ホシ 丁 仙
書ふる初りしに拾る所 半拾
拾しれて初夫所ふるうちハ所 フセン 芦川
うちハ拾 情 打 すれ 所 ヨスリ 秀石

焼米

焼米や 老の口も 合き出 来 蓬雄
焼米 末々 旅笠の外の 初笠 れ 也子
杯も 数 拾 相撲 相撲 笠 笠字

相撲

桐一葉

[illegible]

山畑や数ひろ桐の一葉哉　杜農

[illegible]

[illegible]

散柳

世の中は秋を告げつゝや桐一葉　上ザ程彦

有明の影引き散す柳哉　下ザ兎日

[illegible]

桐つ葉哉　カと健圃

[illegible]

葉を入る立男を桐の一葉哉　イハミヲ未折

[illegible]

散り散るより北山　リヨミ

[illegible]

散り散る柳の糸　糸糸有隆

[illegible]

引汐の清川原や散やなき　ムサシ一待

渋柿の影を散やかきの柳　末明
川の名もかくれなき散柳　浪兄
散ぬれば風もちるなり柳の下
吹ぬりも散ぬるなれやかきの葉　寒海
散ぬるは柳のちるる日ぞ
夏かくれなき白木槿　血口
夏しらし木槿の枝に京住ひ　フヤリ
柄杓井の口降ぬれば色木槿　イハヒ　霞川
桑も色も殊さらなき木槿哉　、峨雁
人のもを借るも枯ぬる木槿　楊女
夏枯るるまぬ白き木槿哉　サシ　交山
渋柿ぬるるまぬ　浪兄

渋柿や急ぬ枯るる時ぬよ　カト　衣西女
枯ぬるるまぬ起ぬれぬの神ぬ
枯新や柳の枯ぬ生ぬ咲ぬ　北山　キ仁　義村
枯ぬるるまぬ色ぬ枯ぬ枯ぬの風
枯新や雪ぬちぬ一ぬ　、董朗
朝ぬるるまぬ色ぬ夕時雨　モリ立　、畔成
枯ぬるれぬ去ぬ枯ぬ　サカミ　梅暉
枯新や明ぬぬ白ぬ　寥左
あぬぬ　フンコ　西古
枯ぬぬあぬ進物ぬ起ぬ　ハタテ　ち原
枯ぬぬや門を進ぬ　沖ぬ　スルカ　井大
枯新や落ぬ枯ぬ　俳恢

萩

はきりの秋や錦かゝる星の浮まる　遂生
起きてまたやまく萩ゆらら星比とつ　梅女
錦画の流れとちるゝ夕かな　カト 積翠
朝くもの色はらへてもきのふかな　春仙
はきりのあやや霊のまく色も去年かな　不朽
朝露のたゝしめらうしや庭の雲　竹舎
錦彩や旅立の先は薬三昧　可卧
はきりのあやりこの色より星は始　守山
料理屋も軒を峰し萩の色　下毛 義静
白萩や松の色ありて寄る甚志　亭雪
庭風の寄りあつま萩のもれ　花好女
夕影のしるしかな萩は色　淙坪

都の人の声きく調べや月の萩　ミツコ 夷山
二三軒おわし萩さし山家かな　素淑
萩わる萩りくゝ哩方うれ、　蓬仙
鷺たちや流さきんて萩の色　扨也
朝霧り方のせたまる坐萩かな　一尾
山萩のさりや萬ませし行ろし　色秋
萩も又せけおわりて青萩かれ　カト 雲岳
不根手形方なもらし萩の色　廿三 松古
去る秋しまるまる萩しきて一面の萩　下サ 野亭
夜まゝし知りて昇まう萩は露　浪兄
萩の咲くや出世稀なき方もかな　葉光
人居きねうちりは秀て萩の庭　竹舎

女郎花

ちあるゝ月のしら〳〵萩すゝき　素丸
萩すゝの風も吹ぬけり ちあまき萩　史梁
松坂李月打つる萩の夕かりかな　宗山
川禅や星の夜あらく女郎花　芸川
よしそらで痩つくやや女郎花　作芸
夕風や露こぼち新のをみなへし　杜山
露くらくて嘆ても尺ゆやをみなへし　竹良
お折れての葉も卵し女郎花　芰口
露くしく尺ろや思ふやをみなへし　丶乃川
こしらをまくるや露けをみなへし　蕉詠
咲きりき山田の畔やをみなへし　梯川
人の行時のさのりつの女郎花　一游

萘花

もうしろ見てくらしめし花　角之
濡衣のおもはれ名はなや女郎花　宇山
打ち捨ても一本づゝや男郎し　素山
名を嘆て打しれて男郎へし　連水
住まゝきれのゆかりや男郎し　素明

藤袴

折かへす名のいさましや藤袴　東水
名をつりを嘆ても似つかしく藤袴　一李
露打く白ひもすりん藤袴　一鉄

桔梗

咲花の影さ暮しく桔梗哉　石芝
咲緩く染めて手腫き桔梗かな　竹良
聖な秋と尺さくめれつく桔梗哉　寛左
松の露待つて庭の桔梗かな　湖月

蘭　萩　芒

一ふりの剣の玉もて結投げ　ウツ　桂得
外に立てる男の子　明の月　結投げ　池仙
机のもと人なれ妻や　葉の系　ト早
世の蘭を抜き　白らや葉の方　ハセン　挑眺
葉の多くの多くの畑の　折り邦　ミナ　妻梅
陣千なる　まるを　岩の萩　月翁
文ちりくたしの明りの　萩の葉　スミ　兎月
静きを　折るもきこの　萩の葉　梅女
り燈の灯も消さうて　萩の葉　フンコ　月末
りなる　部屋　奥しる　うれ　ヨハリ　孫百
糸芭　黄色いてきて　うれ　モリ五　馬城
結芭の　すきこの　松梅　フンコ　葉亡

陣る中に　結ゆりけひく　芭うれ　カヒ　一芭
吟殺る　小赤又出りや　すきて　系　竹舎
川汲の　乃ちもかき　芭乃邦　ハヒシ　住吉
多の中の　結ゆりたる　芭　仆　結竹
結逢ふて　市女の　芭うれ　ハサシ　武人
又て　色る　物きさも　芭　仆　墨色
笘毎に　結ゆりの　芭　すきうれ　カヒ　竹呂
深き　竹の　芭　すきうれ　物る　乃の中　李々
すき　四乃　芭や　多ぬる　月の　深ちる　家的
本の　四乃　芭　結る　中　芭うれ　私美
多る　竹山　微う　邦　すきう　邦　ヒテ　乃九
きう　竹仮　格ちる　芭う　邦　史葉

芭蕉

[illegible]

鳳仙花

[illegible]

相撲草

[illegible]

曼珠沙花

[illegible]

草花

[illegible]

野菊

[illegible]

等の葉を結ぶる桂葉の白い汁　下サ葉月
色入て〳〵尺ゝや桂葉の形ちゝ　末の
壁の蔦夕日を受へうられ　いそ山
よき人の法ゝと入ゝ　芳の新
松も蔦て秋のすゝを　下サ玉蔦
鬼灯　鬼灯を吹〳〵みまを泥糸蔦も　此頃
鬼灯や赤きを角琴　面き　末の
鬼灯の秋を深ぎ日和　イハシロ　橋高
鬼灯〳〵と思ひ対面を　玉秀
ゝゝ出て〳〵ゝ　書椒　下サ玉蔦
玉書の法ゝと玉ゝ　取古
手入の中も法ゝ　蔦風

蔦
鬼灯
番椒

神〳〵を好ゝこの〳〵　行絵
色よきも何中〳〵　カヤ陰　少
味は陰の橋を出ゝ　書椒　寒左
実〳〵成ゝも深〳〵　書椒　橋女
ゝ秋色の物を人を字〳〵　書椒　カド　新菊
秋の色る色〳〵　きロ　染重
小葉実の秋中〳〵の　字山
鶏〳〵日の遠通ゝ　一斎
菊先ゝ風吾橋へ〳〵　サヌミ　法中
味ひも実引ゝ　西瓜の邪
白い汁ゝ法の雑〳〵　竹舎
ゝふ〳〵深ゝ　カド　桂園
ゝ　末の

蒲菊
西瓜

糸瓜

ふらつくも宅の西瓜かな　枕肱
行くに行かれずもさがる糸瓜かな　露重
下の方はすみてさがる糸瓜かな　明昔
鳥さわぐ戸に西日をさえる糸瓜かな　九井
月影にもまたゝしもの下り糸瓜　弘万
よきほどにくり月もこちらへ糸瓜棚　採蓮

秋茄子

隣様へくりかへし日数や秋茄子　逢水
照年のるれゐでも尺くして秋茄子　竹風

早稲

早稲の香や先置きても取る穴の露　二枝
早稲の香は寝心悪き太刀かな　水竹
早稲の香や里の男とさの踏ぞまり　廣拙

稲の花

風にまたぬてゆきけりや稲の花　宗馨

わたより夕日に見よし稲の花　逸民
稲の花たわし橋よりさまよふり　東明
田の暮れくやうするとてへ行くれる花　史築
外路の田も行かふ稲の花　守山

粟

粟穂より見ゆる世の露や畑　素水
獄種の汗も穂に出て粟畑　武人

蜀黍

蜀黍の垂れの毛髪や侍らもとも　一の紘
上風も形き蜀黍の日暮かな　自省

綿取

綿とりや種をぬくめぬ綿稼　乙瓢
わくしりてさてる蜀の根のをれて　抱寿

棉吹

土より行く綿も何事や木綿取　守山
ぬくきや夕顔さりや綿吹綿畑　採花女

桃吟や日和ほどきの袴とる　沢江
閑涼きて奪ふやゆれ　澄れ
ふるさとくも村の家数よ　中れ　高
中ゆゑ出て越ひとや　宵仕ふ　涙
言ふ吟むしも月待ちうれ　半拙
よき春の中や第も入れ　歌　子葉
遠写ふ所新の立ー中の春　上毛　軒
ほとつ春ふ月社高ー　画春
時ふふふふふ吟の中　三拙
中社春を吹数うせー　サト　郎園
月ふふふ中ふふふの　イバキ　桃歩
むー吟や月社軒を拙一　上サ　吟髪

むー吟や月社ふふ春も　、精泣
中社春ふ言ふ泣ふふ　春雄
四時ふふ細ふ月ふふ中社春　タコ　畏假
飯ふふ産ふ春の時やむー吟拙　ナスト　拙高
中吟や外ふふ月社中　ナスト　白雄
ふふふふふ中社拙ふやむー　カヒ　琴童
中社拙の吟拙ふふ拙ふ軒　ミコ　拙里
文ふ拙を拙の拙ふふ中社春　イスロ　拙山
月社中むー社中月ふるよ京社　下サ　一社
中吟やふふーふふの拙ふふ　仆舎
稀ふ月いよく中の言ふ軒　史梁
吟中ふ吟ふふ社ふ春の唐　宇山

鈴虫

松虫

轡虫

蟋蟀

愛宕

下毛野山

寒左

美山

カヒ文岱

玉泉寺

產水

大坂未吉女

富水

ウヒ拇臣

イコ号居

蓑虫

長柄

半杜

竹良

唐杜

竹舎

五葉

ウヤ茅

信足

ホヤキ千石

サト子一

二玉

如子

茶立虫　敷寄屋もまた茶立虫　精知
彩まうの如く孫生の茶立むし　之引
湯の音に誘引せしの茶立虫　汲古
羽音を捨てし捨てしの茶立虫　ろ紙

蜩　けたたましや山の捨てけ遠上　北八三吉　記之也
頭の鳴て来ぬ末のそよぎ哉　早山
東雲の鳴ぬ九月　北兄

秋の蟬　ひたすらに社鳴出しうきく月　上サ平山
鳴ぬ々やう形者行を秋の蟬　きロ洋く
清まるる人も去ぬ秋の蟬　十麦
枝うたをまるひ低し秋の蟬　サカミ茶貢
鳴々て指鳴し秋の蟬　下サ麦碎

蟷螂　蟷螂や形うま空く去月し　芳洲
蟷螂うまれ者の子たちり　杉女
蟷螂や鳴ぬ夜の子たちり　サカミ賀三
蛇蚓　蛇蚓鳴ゆふ夜や秋のさま　北風
月影の袖き山彦や風のちくと　八三吉杜良
淡き月ねぬ彦や鳴蛇蚓　雪洲
淡く下のやうれ鳴蛇蚓　精方
夕社淡社うきやうや蛇の彦　北風
たしかの比ふ陽の蛇　方紙
蠅　蠅の海枝さくく鳴く　カヒ白隆
蠅の海枝中ふ去ば鳴く　二麦
亀馬　産婦ち社中ふ去ば鳴く　北兄
秋外る穏の先まと鳴いかく

秋螢

蜻蛉

秋の蝶

秋の蠅

残蚊

蝨

鷹山別

鳩吹

叩く人まなく時雨秋の蝿　子之

追まはされてもやつれしや秋の蝿　而后

残る蚊や楷を浮ふ雨の音　丸笑

残る蚊や机の下は小くらかり　任峰

子を傳ひしをる暁の音はね　香庵

風は有るにおもしろき暁の卯月　鶴夕

野さ雲は聲をやるぬ乱れ口　卜子

紅葉の夜ひえまや乱　寧左

田は雨を敷てのらしきいまそそれ　鶯山

初鷹や猪やもよ山雉生　素山

見かけるもちゃや鷹の山おもき　吟風

鳩吹の明けて鳴る聲の卯　竹先

鴨

鴨鳴や読まく見れは鹿遠男　卜早

鴨鳴やふり向く都さへ夕日　実村

風より吹きまくる鴨の宮の鴨　宇山

鴨来る鳴く山の渡り夕の卯　春浦

山かけさむしさや暮の鴨　林甫

行くくと日暮見えね鴨の声　古水

一声は鴨より暮そふ枝風の卯　万条

暮鳴や雀を啼る鴨を帰　糸琴

さらす見るく鴨鳴もせく立つる　芳洲

鴨と衆澄中に暮くるる声　求水

鴨立や読める人も鴨さ草の庵　浅乏

雪嶺の消る水田や鴨の声　影

鶉

[illegible]の鳴く友も誘ひ立てるなり
立てゆく鳴や秋を出でやらぬよ　省吾
子鳴くもうらぶれ顔の鳴　ウコ　吉誠
鳴き立ゆきて雨を降るなり　国泉
世の中ふるさと恋や鳴の声　月静
鳴もまや立ちかくるゆふべなり　有住　エミ
蓼の鳴立ち侍るもあるなり　書宣
春分と鶉もしきあるなり　宇山
西風と蓼の実あるしらなれ　スルガ　秋園
蓼もまちち鳴る蓼鳴なるなり　サト　巴根
蓼の古陳む秋をまちて鶉　フミ　義明
春きふり立ちや鳴ふる鳴なり　寒泉
　　茅茅

鶉

鶉鳴く一声聞むうらなれ　信兄
声聞くなるなり鳴　安琴
低く飛ぶ交ひなるや鳴　宇山
日もさせる雨ふりなる鶉　弱舟
西風の鶉の聞きなる　上サ　三苏
人の眼の鳴なるや鶉の変　浪兄
鶉の変生きるなるなり　仁里
鶉鳴やあるなるなるなる　安琴
形なるなるなるなるなるなれ　逢宇
一人枝鶉鳴なるなるなれ　南敦
夕なるなるなるなる秋の人なるなれ　玉成
水と置鶉の聞なるなるなるなれ　竹舎

鳴子

ト早　刺孔　手立ノ雲　ウコ一　笑　を山　籠山　ヲミ子望　篠芽　宇山　芹舎　サト斧　刪　ナカト　栃高　上も　笑　敷

子篠　竹舎　イヨ宰　定　昭風　仝　万紙　半拙　寒左　開篠　下サ　蔭舟　之引　万紙

引板

鳴竿

鳥劫

鰯曳

沙魚

鹿

田面とるゆる小舟と向ふ岸　ウコ　琵琶知
ゆるゆるしく荒き外山の板ぶき　カ　雲僧
角山の門くきくるくる咲の荒　弘美
杉ぶせみうくるくる下る岩の苔　エキ　中納
芝山や秋の移うつり　荒　寂　寸松
月の出のあきき里ふり荒の苔　苔寺
陵寺も絶ーゆふ屋や荒の苔　の旅
里を徳山を荒ふく板ぶりなる　旭月
苔ふりもさびしや荒の宇ふる彩　上サ　義本
義へ来てイむ苔や風の荒　、洲　重
明の苔ふ紫ふく伊ふ郎　ウコ　寺峰
若ふくや峰きえぶうふ苔の白し　ヨコハマ　和仙

秋の懸

懸の別

刈たれぶる受ぬ板さびし　荒の苔　フセン　咲寺
足ぶれふの苔ようあさ雲ー板屋の荒　乙　瓢
赤物の坊ふうふふ郎ー荒の苔　コンコ　丙　風
東寺の川桃ふゆく女　荒ふ郎　伝　兄
ふふふふくゆくすくふ　咲のーふ　トサ　粉　芝
咲ふ入る月ふふふー荒の苔　宇山
宮ふふあ秋の板屋ふ一ふふ郎　柄女
板ふふふも約板の坊ふて秋の板屋　上サ　粉一
川寺を陸ふ板屋のふふれふ郎　半仙
ふの苔ふ板板のふふやふ生　鶴　寓夕
郭ふふくふふ板粉のふれふ郎　ミチ　一的
急角ーふて陸ふやふふれふ懸よふふ　ハシロ　茶文

わうもくまうれつ　松根

司　召　事例　さもけ　立花や　司　石　青竜（エチゴ）　寺山（ウコ）

業上戸も　招出られう　司　石

ちの嗽も　日ばうしの　石　仁賀

さかりくる　日和の　ちのや　能田　旅　寺載

化粧　と　新あ　能田　能田　来山

起る月の　後　むろう　能田　能田　、　笠裏

粧ひう　ても　ほひう　能田　旅　芝（シバ）条

秋の山　秋　と　秋の　秋の　山　壮山

大空　の　空　や　秋の　山　酉（ムサビ）山

又　を　れ　を　や　の　秋の　山　一　旅

明の　ち　う　海の　ち　う　秋の　山　旅　足

秋の山

竜田姫

秋の水

秋の川

秋の聲

大風の　吹　の　こ　き　や　秋の　山　和（上サ）　秋

夢　秋　る　鳥の　む　ち　や　吹　ち　れ　山　梅　高

田　れ　引　を　海　を　吹　て　秋の　川　ま　れ

屋　旅　か　ぬ　く　ま　う　や　秋の　川　左　条

ま　う　傳　る　生　対　ふ　う　や　秋の　川　す　秋

秋　教　を　志　の　れ　ま　の　秋の　小　木　裁

宋　傳　や　さ　く　し　こ　く　秋の　小　新　変

ま　の　百　れ　ま　て　な　き　や　秋の　小　竹　舎

仮　初　を　山　く　海　て　吹　ま　れ　う　魯　寺

風　ち　へ　ま　て　山　ま　う　や　秋の　小　を　小

ば　く　く　れ　孫　を　ぜ　ま　よ　秋の　小　寺　山

は　を　や　孫　を　し　く　く　り　秋の　春　上サ　明　寺

秋の空

蓼生る淵や　ありのうら　秋の雲　竹良
秋の海　吹きくるしとも　なりもしらず　杉江
天くもり　雨出さんかと　あるに　あるに　下サ　雪隠
雨うれし　聞ゆるものの　ひまのこゑ　芳洲
生竹の　揺るるに　秋の　雲　ホタル　墨雨
行く雲の　ちりして　はるる　秋の雲　悦山
新ゆれて　空ゑる　岸や　秋の　雲　竹舎
河の変り　吹く　雲も　秋の　雲　イヘヒロ　柳葉
河ゑりの　峰　塊さう　ひるまの　雲　三子
秋の空　初の　雲　ゆるる　ひるの　雲　二休
ゆるる　雲の　入るる　雲　秋の　空　墨百
時雨しゆく　空の　雲　さ　秋の　空　オカキ　白鳥

秋の月

うつるるも　雲の　はるる　秋の　空　鶴江
文ひろげ　ぬれ　ぬ　ひろ　秋の　空　素堂
海山の　ふるさと　ながめ　秋の　空　秋美
雨毎の　秋の　空　ふる　月　秋の　空　知泰
池水も　ひゆ　ゆ　変り　秋の　月　下サ　汐月
山水の　ながれ　さえて　秋の　月　沢之
知れるもの　ひとり　秋の　月　鳥羽
又砕け　ちり　かくれ　あまり　月　茅舎
雲先も　秋　おそ　秋の　月　竹舎
きりぎりす　ぬ　ぬ　秋の　月　史葉
初月は　雲の　れ　秋の　月　木兎
雁ゆくも　ゆく　ゆく　初月　秋　秀美

初月

世下月ハ八月ノ異名ニ用ヒ
又夏三春ニ

初月や蒼々まとけぬ人の声　呂川

初月や語るまもなし二休

初月の糸を吉野の白ひげ　仙足

初月は明るき宇治の宿山　寒左

待宵

待宵や夢ぬるまもなし初月　雪洲

待宵の方ぞ多かりし山の雪　苔水

名月

名月は船出して見ぬ外　丁馬

名月や寄きやすいん支郎

名月やさし手ぶし毎の旅　莫面

名月や長すり夜き川の中　仙風

名月や主もて寄る人の家　苔泉

名月や結ぶ手ぶり高ぶる　子丑

名月や山のうへ遠い　雲　傑山

名月や五も数えき夜ぐき　英穀

名月や仏あり薬師あるもむしろ　寒左

名月や一枝と明りて結ぶ　乙鄙

名月や雲吸ふふ用もひろ　丁五　持仏

名月や名付ある山を天て勇ぶ　不朽

名月や雲ぶうう所ぶりて　仙舎

嘯ぶ〳〵ぶうまうぶ今世て市山の月　太年

文科の山仏ぶまよ　月　カさ　芹丈

市ぶ〳〵名仏を結ぶて〳〵山の月　梅南

長写ぶ〳〵　嘯ぶ〳〵ぶて〳〵ぶ山の月　仏兄

今日の月

雲深しと思ふも思ふまじきかの月　孤雲　宋仙

江村の秋の夜の語やらんとおぼゆ

一位重之もあるべし　市山　月宮山

月今宵

光くまなる月の三枚きの々書られ　きよ　露村

かり初めそめぬ月のかげ書られ　廿三　時圓

雲くまなく枕もつくれ　月々　言　上毛　良庵

月見

曙の風を裾引きて　月見れ　昭風

一両の坊と一しるの月見うれ　卜早

如月ひと古きうの逢き月見　仙見

さむしろや枕る月見の二三人　三カ八　詩羽

田を望く都や月見の夢こころ　陳四

雲を紙くて乃変きもの月見うれ　弁し　一東

廿六夜

十六夜や雲の風も無きうち　杜農

既望を雲まで待て出る月　吳仙

雲ふまでや月見ぬ待て　車拙

いきよひの雲ぬ玉うて　山　寧左

十六夜や月のうへの　きりく　支梨

月代や雲しとおりくるる　山　紗良

葛城しかくれ　月出　弘義

雲の月のきりの雲れ　乙瓢

住吉の月　雲れ　雲れ　左余

月の場てあれ　月見　月　カと　桃下

月を雲の月見　雲れ　俳坊

雲よせて　雲れ　月　イ八三　西壹

月

やさしさもなき みのしをしふる月の名　暁台

雲や月を隠くりゆかし長き　、松哉

名乗やさし入る雲の月晴り　千丘　可賦

月の名わりなひ尽して明る夜　上州　松雄

名残りの秋なき月残り尾気れ　、露水

月に出て今宵また来る夜はてしなし　、気来

新たしき月や丸さのましてゆかし　静翁

人よれ出ゆくの生かし畑の月　卜午

おしき浪に磨きあらたの月は思　対几

月汐や庵と見えなし椊のうへ　凌雲

汐や月見えねて汐なる八新らり藤　八蕉　暁風

水鏡と見えて波まかせ月の海　梅窓

初汐

月の汐秋や暗も汐騒こゝ鳴り　寛以

舟や今宵もゆかし月の山まだ暗き　イセ　柱栞

夕晴れきえぬ今宵や月の影　桂花女

風形りて見えしきやうの月の色　畏俟

霧汐の蘇の奥も月秋の初　杜岁

置きさき山の名よる月秋の初　竹舎

餅喰うて新しきを月の前　宇山

初潮や柳ちる頃汀のしほ　芳洲

初汐に浅くて清き垣根の初　呆菜

初汐や横川までも蟹くれ鳴り　沼兄

初汐や出したしけたとく匠く鳥　上州　山月

初汐に月まるまし小家の汁　史栞

放生會　何山て貝をとりし先へ放生会　巨水
すまのうらと功海のくちや放一番　仁軍
堀切きくさて源りうと放生会　言外

秋の夜　秋の松やいつもも高一山の松　二友
秋の夜と卯ちふや雨の音　祿金女
秋の松と寒あまの月の色　カヒ　慈玉

秋の雨　秋の雨山の松くさて降よりて　ミカハ　山雲
新山殺のこくよりふる秋の雨　岩左
皆山をちこうてうて松れる　カヒ　月遠
春きしぬ夜のとも中や秋の雨　イハミ　松山
降こちよ恩のうちりて秋の雨　之引
灯火も更れも白一あきれ雨　二休

秋の鐘　秋の鐘よりはつ秋の後　而秋
雨ふくしく響くやしく秋の後　之引
旅をかの耳よりとまるの秋の夕　昭風
明あるりや秋を寄こ陸源衣　竹良
里をくこをちふりも秋の色　白鱗

秋　秋は私　ミノ　蒲條
秋の名を松よりあさくて月と中　安秀　春育
出くすくよ秋を見をを松の面　丈收
をいまく殺きををを秋の雪　スハリ　山雲
秋三月雪のすくれきはひしり卯　高外
戸切りし美向あるりて秋の不二　カヒ　仙路
なる月をいをくくをを秋の夕　負笑

雲も山も夕の日を秋の色　二条
さらり出て時雨や秋は和　ト早
百え移り秋の高く移り水　魚石
移の池おきひとを形うを　別れ
寄ゆくしくをうを秋のこ　宮山

九月之部

九月

稲妻の一夜星移る九月哉　太年
世の世俗を移て山の九月哉　寒左
わ色り元ト移る九月哉　氣翁
新色の移る吹えるる九月哉　二休
池山も寄けるれ二百十日哉　手枕成

二百十日

二百十日の暮の嵐　仁里
簾浮き動きも二百十日哉　浪江
稲を移る出移る二百十日哉　一有
又と移る二百十日の月夜哉　浪兄
たる花ハ花ハ二百十日哉　モリ五
家移り招ぐ花ぐ後の雁　羽山
ゆくくくの紅見ひや後の雁　浪兄
茶碗の出庭高や移の雁　朱山
夜秋の高くくや後の雁　そ恵女
月ちも静かのよ後の雁　宮山

後雁

十三夜

月の夜の茶ゆりゆや十三夜　素水
出る月の人もくくせて十三夜　吟風

後の月

信濃国にて形人くとゝろや十三夜　此子
むつとゝろ路もほむや十三夜　二夜
迷さゝゝ天ゝ於とゝん後の月　夜路
明の風社吹うきを後ノ月　ニカバ巴乃
清ゝにて行る路中ゝ後の月　シテ松戸
峯の雲も立ゝ後ゝや後の月　後路
むつとゝろ出ゝ夜を行や後の月　ト早
禁裏の奏りも天ゝ後の月　財九
人の淺る路ゝ後の月　白俳
友の来ゝ峯つゝ後の月又うれ　ウコ後を
宋の戸を叩ゝ後の月　子茉
天竺の路の邦　後の月　浮絵

姉ゝ路ゝも後の月　法光
後の月陳子ゝ影の新ゝき　之引
篠屋の垣を抜ゝ後の月　洒竜
明ゝ山ゝ月の名残ゝ孔　サト矣山
むゝ屋の影ゝも月の名残ゝ邦　西鶴
淋ゝ明山も月社名残ゝ邦　採茶女
月社出ゝ邦ゝや京の市ゝゝ　大坂義琴
船路も賑ゝ少や京の市の榊　ウユ来洒
垂ゝ路ゝ賑ゝや井ゝ出一ゝ　許良
鈴の人の数をゝゝや井の市　寒左
麦人ゝ世を市あゝゝ井の市　仁是
又栄ゝ邦ゝゝや休の麦　意石

月名残

賣ノ市

拝の市

竹の春

夜長

寺の名を問ふ小舟や竹のおく　寒左

宿までは影の旅寝かな竹の声　サカミ 名月

虫の音の世のあはれ竹の声　之引

遠ふ舟に物いふも竹の声　玉保

起きて見し雨さえまさる竹の声　史琴

夜となりぬ灯その相伝　鳴風

長き夜をおもひやるも浅きかな　竹舎

長き夜を物語りし薪かれ　寒左

長き夜の灯をかきあてし竹のうら　上十 捨防

夜寒

子の声や夜寒の庭の碓　扶斎

犬鳴くや知る夜寒の鄙　卜早

山の端に月見んと出し夜寒の鄙　リ舟 清こ

朝寒

曙の松をもさめて朝寒かな　カヒ 玉芋

出水を掛けたる朝寒哉　柳

夜明の声も聞きの朝寒の鄙　伝兄

声かぎりし雨れまさるも朝寒かな　カヒ 石川

朝寒や己の門田かり　峰路　サト 来民

朝寒や磨き上げる釜の音　高水

朝寒き日記や猿の声　カヒ 宗丈

朝寒や暖に障りし竹の雛　東仙

朝寒や鏡に向ふ身だしなみ　上サ 里仁

朝寒や軽きおもきもほと焚く　えど 春嘉

朝寒や水かけ流し雲の色　子菜

朝寒やまだ朝日かかる月の影　薫跡

冷

[illegible]風も[illegible]の[illegible]

[illegible]や[illegible]の[illegible]

身に入

[illegible]も[illegible]や[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]や[illegible]も[illegible]

[illegible]

彼岸

[illegible]

人の[illegible]も[illegible]の[illegible]も[illegible]

[illegible]

野分

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桑　ユサ　早
とくの　ちくら　美くら　梅　桜　梅　櫻
こくの　入くく　秋の　天くら　桜　桜　おくさ
ちくく　桜　ウつぬ　桜　櫻　ちくき
多をき　夜の　しまり　ヨコハマ　雪　桜
桜の　あへも　ま屋の　多の　桜　ちくき
木屋　屋や　家う　ものまれ　多のまくれ
木屋や　イハシロ　有　俄
木屋や　琴　桜　ちくり　ちくり
野ちの　と　俄　美　葉　秋
野ちの　俄　ちくり　嶽　よ　多　美　落
芙蓉　城　秋
寒　左
紫苑　俄　桜　ちくら　ちくり　ちくり　ちくり

白粉花　白粉の花やうなる——　粉花　白粉の花やうなる——　粉花　白粉の花やうなる——　粉花　白粉の花やうなる——　粉花

露草　露草の花　露草や　露草や　露草や

切株のとなりやそこ[illegible]　上サ仁里

若萱　[illegible]　[illegible]　[illegible]

松茸　松茸の秀逸なるは　法の妙　和泰
松茸や　新もいまだ小吸　その　楓変
松茸や　新酒　香の味　二変
盗まれぬ　あと松茸の　匂ひ哉　寒左
松茸や　出しても又　入るも一つ　弘義
　　　

新葉

歸玄鳥

行玄鳥

雁

小田寺や戸さしてを掛る蔦も紅
新まくやよれを傳ひて天くし　子葉
新まくや形も生そな米　俳　窓左
一撥くや乙鳥の鳴り風吹風　安房　里東
言葉を鳴る乙鳥の支度かな　仁里
秋くるの秋ふる言葉れ
鄙雨の降てもゆる言葉哉　宇山
玄鳥のけや異さも遠うなる　走水
けうして里をまわる乙鳥ホ　ウコ　竹雪
鳥の寄向上下りて　計　鮮雄
夕方や月も来りて初鳥　独松
寄夏代天　斧刪

陰の松の陰つまくて鳥の寄　俊吾
立鳥くや時を忘れ　初日　鞍　橋吉
初鳥や淋しくなる松の寄　子之
ちやくくと田の鳥寄て仕舞ける　碧堂
鳥風呂や天井板の吹くくし　汲古
翌日の松も吹るまる鳥　面社　鳥　ウ　東光
初鳥や江雲人鳥くく松の寄　心善
鳥の吹方や山雲くる　清　ミヨ　山
初鳥の吹付　既る夜半れ　二休
ちつ鳥や小ゆるかくの高月夜　南　ハナミ　彦
園よりちきれる月の鳥　之引
立鳥ゆ垂しくなる松を抜き　英琳

渡鳥　[illegible]　[illegible]　[illegible]

太刀魚

河鹿

崩藥

砧

新酒

九月盡

十月之部

十月　[illegible]

十月や殺生の[illegible]多き　[illegible]雄

十月や[illegible]の[illegible]　仁里

十月や[illegible]日の春[illegible]き　[illegible]翁

小六月

[illegible]き[illegible]吸ひ小六月　[illegible]池

[illegible]のむしは[illegible]の小六月　[illegible]友

[illegible]起の[illegible]の小六月　[illegible]山

[illegible]の[illegible]小六月　[illegible]翁

神無月

[illegible]を[illegible]神を月　山[illegible]

[illegible]の又[illegible]神を自　[illegible]芽

木[illegible]神を月　上ヨリ[illegible]長

神送

[illegible]風[illegible]神　送　[illegible]兄

[illegible]の[illegible]神　送　[illegible]翁

新形の相ふく風や 秋 近 卜早

神の旅

人〻さの杖もかしや秋の旅 走山

杖をたゞ送る神の旅 孤雲

神の留守

この〻ゝ如き杖の接や 秋の留守 閑素

〻ゝ水戸さ去めて 迷ひ 秋の留守 ミカハ 仮 照

神も留守 旅宜も留守 月 秋

神の世と杖を入れし 秋の留守 扇女

達磨忌

達磨忌や水うゝ苦一種 五雀

達磨忌や出入九年の旅 対几

達磨忌や孤の利生 杖 腸 仁望

達磨忌や雄〻自ものしうる 信兄

達磨忌や浮世を修ゝ冬一物 信幸

御取越

御取越 御会 問 命 講 出 形 南 ウ 畏 候

降 〻 人 古 社 会 の 修 ゝ 出 取 越 史 桑

翁の日

来 拙 の 座 を た ゝ の 翁 の 日 奪 堂

きの ゝ り 翁 ゝ も 見 ゝ の 翁 の 日 カト 一 古

翁忌や 杖 の 御 ゝ 古 ゝ 信 兄

芭蕉會

芭 蕉 忌 命 月 ゝ 時 の 信 ゝ ゝ 会 江

ゝ 会 の 忌 命 明 ゝ ゝ 会 ゝ 翁 ゝ 女 ゝ 桑 翁

御命講

ゝ 杖 ゝ 講 ゝ 出 命 講 有 像 バンコ

市命講 市 命 講 市 形 ゝ 猿 ゝ 流 の 味 素 民

十夜

ゝ 言 ゝ ゝ 子 修 の 夜 き 十 夜 ゝ 一 流

修 陸

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

秋霜

菊

雨の葉白し

白菊十芙蓉

ゆゆしく咲ける畑の

羽織菊

世をそむく人も菊を

菊の花中月

菊をうり又人菊をうる

杯に一ちぬ

数ちらせる

ちる葉のうら

ぬれてちくさ

夢捨てく人ハ白う

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かゝる世に蓬を葉よ吉くも生ひ出ん　二夜

蓬人の宿しるべきまの葵　竹竹

きぬ〻〻入るもまたやあく秋の色　弘義

白菊やもしめよ入る色のよき　文山

芥萱

雀麦の穂おや赤き穂と穂と　ま山

かゝるやれ見て吉くきゝ入れ　住峰

うるもやく我き秋の昔　寒左

我木香

あれ詠の所こゝめ〻秋木香　ろ秋

色吉めるり居るものや赤木香　霜夕

野ゝ人まもと仲ゝ赤木香　一之引

世を乗るまひ住ゝて秋木香　卜早

破芭蕉

宗のもせれ明きまゝ破芭蕉　茜前

伸るよ彩ひゝ破ゝもせれ孔　之引

破れゝ枯ゝ芭蕉ゝもれゝ　紅雲

豆引

豆引やもの者明き風の香き　梅一

豆引やゝ生ゝ作ゝ黄ゝ　霜夕

静ゝや門の豆引　雪月　叔

来枯

芋ゝ吉ゝ明ゝ萩ゝ枯ゝ　杜良

ゝ枯やゝの咲ゝ望のゝ　柳嘉

来枯の枯ゝ隠ゝ　芳洲

来枯の明ゝ　鶯巷

ゝ枯やゝ咲ゝ枯ゝ　沾兄

蔦紅葉

蔦ゝ赤ゝ明ゝ住ゝ　芳紅葉　英子

風ゝの枯ゝ　紅葉　沾兄

紅葉

紅葉を殘しそめ殘やそのうつろひ
一変後しそのうつろひ
青きそのうつろひ
龍しし一葉ふ葉の
沙汰そのうつろひ
葉ふ葉ふ人は又逢ふそのうつろひ
長羽織者て踏もきし紅葉うれ
星影のゆ抜まり
紅葉乃やあ抜ふる
長年のもれ
逢ふ山ふ
雨一夜二夜

少雲
芹甫
佐兄
月池
等載
黙平
羊山
サト吉
巴鶯
一南
野也

紅葉

秋ふ
まの
吹風
枝伝
山陰
けり
伝の
紅葉
宮田
多夕
郭
紅葉

さ
遠
紅葉の
き
ふ
を
ま
ふ
ま
ふ
ま
ふ

梅園　史葉　宇山　雪友　美仙　浩江　紅足　一雄　白雲　浅浪

野山錦

色不替松

柿

栗

落水

尾越鴨

霜踏葉

後栗も拾ふ人ぞ　山の家　波雲
拾ふ　拾ふ　拾ふ　拾ふ　栗　拾女
仮拾も　ふ　ぬ　ぬ　ぬ

入雀海中成蛤

柚味噌

新蕎麦

新米

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今年米

[illegible]

新綿

行秋

[illegible]

秋のゆくすゑや隙をすまる　ミヤ雄山

り秋や芒を秋のあり　／美山

り秋くあり　京白

樫の実の落て秋の音　フセン柳湖

ゆく秋やいくひも通り雨　イハキ又二

秋ふく風も秋の沙原　ト子

聖ゆくふるも又秋ゆく　一石

秋くれて秋の蔡も秋のり清和　定芳

ゆく秋やものの秋きりきりぶく　又引

り秋くり一素くくくの色　二休

り秋のきくりと秋ものむ秋色　魯堂

り秋のりわもとむる秋風の和　魚弓

秋深

秋深くあくや笠屋の五六軒　大坂徐来

冬近

子の戸や秋き深めり夕きり　モン輝麦

立ちや祇園ぶくまくちくり　ト子

冬隣

冬を一秋ものくり月くり　杉一

きくりくくもかくくや冬くくり　ミノ峰石

作り本の垣もきくくり冬諸　沾足

冬くくくる言葉きくり御くり　京四

冬諸くる梨りの都くや門扉　サガミ寿木

十一月之部

霜月

霜月の終きぬ京や霜くる枝　京北

霜月や伸くくもあくりの伸る　風雅

若月や　芋とりぬ　穴のふたつ　ふたつ　　乙鶴

初冬

初冬や　不二まで　雪のちとまより　　乙鶴

初冬の　雲も　雪　飛ぶ　烟　　乙鶴

初冬の　雲や　ちろと　吹とすれ　　信之

初冬や　移様　ふる　ふり　　二春

初冬や　渡入　ふる　庭の　松　　イヽミロ　燈成

酉の市

古屋　ちの　人の　賑や　百の　市　　成雅

参詣も　信　百の　市　　若光

三度　ても　三度　きりに　百の　市　　ハヨヲ　時嵐

神樂

時　又　移　ぬ　初　よ　里　神楽　　時風

ふ　れ　も　清　き　ぬ　ふ　ち　の　里　神楽　　芳湖

初神　歩や　新　ける　柳の　雫　　乙鶴

鉢敲

世の　落　ち　込　まる　鉢　たき　　柳高

り　あ　る　ま　ま　法　ー　て　鉢　杜　畿

ま　な　ま　同　ー　ま　や　鉢　却　　大ハ　蕉琴

明　り　も　き　月　な　て　鉢　た　き　　仁望

門　な　る　大　も　や　ー　鉢　却　　湖龍

初　毎　ま　て　ま　初　の　鉢　ー　鉢　却　　移汀

そ　の　人　を　殺　ま　ま　も　た　を　鉢　却　　文山

神　却　ま　り　き　ま　ま　ま　ま　ま　乳　　を石

爐開

焼　開　て　ま　ま　ま　り　る　住　乳　れ　　イヽミロ　蓬仙

焼　開　や　お　仙　却　て　　釜の　う　　信之

焼　ま　や　ま　ま　て　ま　て　鉢　ム　堂の　井　　ミカハ　重風

口切　口切やわさすがしうてうら開く　蓬庵
　　口切やりふ名所のうらしい　真壽
　　口切やうまうて猿子の物しぶの　卜子
　　口切や袋蜜を吸て森のうへ　守誠
　　口切や福の好き新きうり　ぬ徒
　　口切やすこ知らう形ぬ方　甫青
　　口切や雨あうしき方型拵　信兄

北窓塞　小言や言ひを徒の多くある　乙鼎
　　変うせうゆや一杯風や小の言　二紅
冬構　魚朶結ばるるの山あの冬構　青美
　　言ひ過ぎうを冬のうちへうの卵　カヒ好也
　　松青うゆ風うや冬のうちうち　サヨミ山色

冬籠　杉うを山路ふ冬ふうり　十湖
　　初冬の松を振るも似うり冬籠　芳洲
　　初孫ううたうを抱うり冬　利凡
　　焼ゆうう内を暮うを冬こうり　常鯨
　　墨の香の言うり言かて冬籠　甘丈
　　月冬の形うも出ふて冬　籠　塚住
　　遠写ふうの影細一冬　籠　信兄
　　竹よ降うを少ふうを冬ふを　酒生
　　縄も出ふて遠ふ小言や冬ふうり　乙鼎
　　冬ふふを用一事一を暮うり冬　言山
火鉢　寒ふ隅へうとふて冬ゆる火鉢小　色丸
　　業内ふふ冬ゆ一きの冬鉢小　サヨミ柳吉

火桶　苗ゝ社桐よと稱る火桶なれ　大坂小玄
作き出しそゆゝ新せめ火桶小　左岳
伊よりも吉ゝきたや相火桶　弁シ　柳所
杉ゝ今さ吉中へ出し火桶小　イヒコロ　秀舟
板の條や條と火桶と於うゆる　字山
埋火　埋火の吉ゝ伊やうゝ全　シナノ　杉城
埋火や遠と岡へも極新吉　菜史
湯婆　湯の板を吉ふゝもあゝき湯婆小　伊国
湯婆の之せる成る湯婆小　重淵
伊くゝゝる火ゝまの沙きたんな小　末伊
伊ゝ寝の吉を助る湯婆小　春色

温石　温石や達の吉餘ゝ吉ゝゝ　大坂波少
巨燒　巨燒の吉餘ゝ吉ゝゝ伊の吉の　寧左
用のゆき方ゝ吉巨燒小　走社
ゆゝ吉人のゝ吉ゝ吉ゝ吉ゝ吉ゝ　拔高
巨燒も人ゝゝゝゝゝ暗の吉　魯堂
つ方を吉ゝ吉ゝ伊も伊る巨燒吉ゝ　ミカハ　柳
ゝゝゝと餘ゝ吉ゝゝゝゝゝ小　、富夕
ゝお吉ゝ切ゝゝ乃ゝ吉巨燒小　ヌリ　堅堂
ゝゝゝ抓ゝ吉ゝゝ吉ゝゝ伊　桜桐
板を吉ゝ成ゝ少の利ゝ巨燒小　ウコ　風和
年寒吉ゝ巨燒吉ゝゝの力ゝ伊　青芽

炭

山ちの用をつくるとて古ちうれ　下サ里仁
一ちきりぬくき巨燒こ出ちり　吾七
枝炭や　雪の古多人を切るのち　弱多
炭はくるや　野の村の山の釘ちう　寸杉
炭の多やちうもて北をよの多　芳湖
ちすちちちち　接起ーちり　つちり炭　を山
炭殘て古中ちふて、高を見ーちり　白隣
世の果の見も　多ちり　炭殘　新月
炭の多やちうちうと世ぬ高ーー　ぬ杉
子の戸や炭　殺く古の杉ちの　この山
稜東ーーくちを　ちうり　炭　一沈
降　さちの中ちうと　ちうや炭ちう　器表

白炭や　殺所　杉古ちと　源和
火稍りすする　写を炭の白い　れ　杉長
竈出ーー杉　子ー千や　杉の雨　ミノ南　坊
生栄の多も　ぬつーや　炭　俵　ウコ知　耕
手をちちち　多を　杉入る　炭　樓れ　、ぬ杉
立ちを　東ちを　ぬつーー　古生炭　桂圃
墨の多を　切ちぬ　生ちり　杨　炭　ヨスハマ和　仙
起ちはくちうと　ちうちと　杨炭　立山
炭うちやちちり　ちうちと　杨炭水　この山
りちちはちのを　繋りや　炭　嘉　イルヒロ城　産
察すれ　方を　炭少も　炭園れ　卜子
不見ちきたちん　干坊の　構下雅　三子書

炭竈

炭園

褌

[illegible]人の[illegible]褌火が　大坂彼岸ヨリ尾光

[illegible]京より[illegible]

来る雪又袴作を合せ褌火れ　上サ桑原

[illegible]

褌[illegible]世の[illegible]を語り[illegible]　東山

[illegible]吐く[illegible]褌火が　モヘン柳沼

[illegible]も[illegible]白一褌の高　乙鼎

[illegible]人又林[illegible]のよき褌火が　サカミ釣宇

[illegible]　芳洲

[illegible]　月静

[illegible]の袖[illegible]中

[illegible]舟の中　上サ未詳

[illegible]中[illegible]　文山

頭巾

足袋　白足袋や小者夫の物　詞　卜子

足袋[illegible]　之引

[illegible]一[illegible]男ひ[illegible]　芹舎

紙衣　[illegible]衣さらもよき　杉

[illegible]さ[illegible]紙衣[illegible]　秋圃

[illegible]ぬ[illegible]衣[illegible]　芳柔

[illegible]衣や[illegible]の[illegible]　魯堂

[illegible]紙衣の[illegible]　芹甫

[illegible]き紙衣[illegible]　[illegible]

布子　絶揚の[illegible]布子[illegible]　[illegible]

[illegible]桑を[illegible]人の布子[illegible]　卜早

蒲團　[illegible]舟へ投込蒲團[illegible]　直水

[illegible]油の白ふ蒲團の[illegible]　一時

桜ゝ出しとまるよ旅掛のかたん　沒古
掛入形を野ゝ[illegible]　青蘭園　[illegible]山
きしかもるゝ多拾きゝむふんか　竹掛
ゝゝゝいめ掛芝や舟の形ふん　蓬伸
沖切を表ゝ形る蘭園郎　玄山
稜の青も風も通さね余郎　沒兄
掛古ゝの形ゝ功ゝゝ厚余　玄石
一世帯も拾て[illegible]ゝ　卜早
七日尺る門田の移も小春ゝ郎　才栽
ゝの形人出ゝゝ小春の[illegible]ゝ　魯圭
家きゝまるゝ小春の城迄才　掛古
ゝを沒写生ゝ月[illegible]小春才　竹金

余
小春

小仕事ゝまるや小春の伐屋川　体孫
新ゝの門ゝ小春の形ゝ[illegible]　生仙
小春ゝや時ゝ紅ゝ　掛柳　蕪沒
古ゝ屋の門ゝゝゝき小春ゝ乱　芙ゝ
築山の赤の桑接出た小春才　一能
黄ゝの新ゝ[illegible]ゝ小春ゝ郎　仙光
ゝゝ[illegible]ゝ傳物の形る小春才　乙鼎
[illegible]ゝ子屋の青ゝ小春才　沒足
[illegible]ゝ[illegible]ゝ小春才　宇春成
物ゝ人甲ゝ人ゝ小春ゝ郎　一山
人[illegible]ゝ形ゝ小春の杜　芙村
技掛戸を形ゝ人も小春ゝ乱　芙訓

初時雨

時雨

宇山　出川　柳岩　霜夕　一時　刺れ　一斎　横圃　重柳　宇山　巴　寸松

白鳩　紀泰　夕礼　卜早　武人　幽玄　一石　忍山　柳高　月宅　後平　止善

中秋しよりそめし時雨かな　開発
名聚りけり板も葺く時雨かな　魯童
時雨はの きしてふるこそ村しぐれ　吉丸
吉丸もやはらを葺き板ぶかく　羽山（ハヤマ）
一本の杉や吉丸しぐるしぐる　野雲（ノクモ）
時雨ふる星を置きかねもしぐれかな　子之
遠山の吉丸もぬのしぐれかな　末精（スエキヨ）
樵歩け樵の吉丸しぐるるか　杉枝
時方吉丸ぬれぬれしぐるるか　北之
吉丸しぐるしぐるの吉丸の海の音　珠巡
木枯や義丸の深夜の吉丸　昔（ココミ）
木枯や中分ぬきしぐるの音　魯童

木枯や雲くやくやの山　月城（モリヒ）
木枯やまよ岩ぬ　城の音　山（ヤマミ）の音
木枯や時雨ぬ　時雨ぬ　月の音　加波
木枯や音の音の音　海雲
木枯や時雨ぬ月の山　月の音　豪二
吉丸ふるふる新吉丸　木枯宿　山の雲
木枯やしぐるる　耳の山　枕脇
木枯や義の孫の音　刎吉丸　杉笠（ヒ光）
吉丸しぐるる山や　吉丸の小郎　野雲
木枯しぐるる時雨の野ふる　二休
木枯やタもしぐるる　吉丸　吉丸
黄昏ふる　江戸本枯の光りられ　波多

寒

[illegible]可仙
[illegible]乙鄙
[illegible]蕓舟
[illegible]魯圭
[illegible]浅渡
[illegible]市水
[illegible]蒙頃
[illegible]光拜
[illegible]卒山
[illegible]臺雨
[illegible]妻柳
[illegible]宮洲

落葉

[illegible]
[illegible]
[illegible]

木の葉

雨ふるさとの夕ぐれ　芭蕉
ぬれしくしぶかきを望む夏菜哉　乙鳥
吹ぬけの縁の切ぬ夏菜哉　枝友
いとくしひも捨ちて巷夏菜哉　我路（きろ）
押流ぬ中ちくハ天くれ夏菜川　楽菜
夏菜して舟のまき伏哉　山月（上甲）
吹わ来て舟のくの夏菜哉　淩雲
苔ふるる蔭の竹一夏菜哉　乙鳥
吹抜す木の葉ちるや夕　移　小山
散てきこゆる夏ちるや木の葉哉　竹民
ゆ降ふるあるくの木の葉哉　夏来
降りおき月を天ちとう降木の葉　乙鳥

歸花

黄ふくき実もあるかる木の葉哉　京山
吹たれも又ぬれも戸　京山
色よりも葉色おて　休全
夏ぬちちも切て　芳洲
色もまくぬ赤ら　桃窟
散まくるみちめるる　二休
ちくしく色ふくく　沾兄
杜ぬ赤ちまと　石川（カと）
降る花蓋のくちハいまくれ　ずみ
咲くるうちれくうと降　子之
降ふくくまくまくま

冬木の櫻

冬牡丹

十分形ら数ゑきもて、このうちまれ
咲くりきを待ちもきめや降りを
降を雪きくやを数の本を探りし
人のらふかくも咲しうりを
形つのしきものハ冬木の櫻れ
蕾をもきぬ冬木のまくを
咲くりきをめそくうりを冬牡丹
古をを作宿せくも置し冬牡丹
一形りり形のめをりを冬牡丹
枝木を の新くものや冬牡丹
物好くを冬ちくを冬ちくを
冬ちくぬくの天ゆる牡丹れ

葉子 梅一 東山 竹雄 一鳴 大洋

ミカハ イヨ リケン

山茶花

茶の花

ゆくくをの方くくも降くく冬牡丹
蕾もよくく葉事て乃を乃を冬牡丹
山茶を花やり方を櫻を花ハ久ーを
山茶を花や一ハ天を十茶りをを
山茶を花やりれをを天を 物
山茶を花やりををを蕾の 方れ
山茶を花や餅の蕾をを茶の光
山茶を花や蕾り過をを降りを様
茶の花や姫乃を遠くちくを
形くれハよく茶の乃る茶の木 小
茶の花やりをを乃を降を霜の部

下ハ 乃雄 イヘミロ 葉彦 芳洲 方れ 彦美 梅長 方れ カヒ 吐和 ホトキ 杜月 モリル 羅古

菜の華やうやうとよそれる菜つくり　佐と女
菜はあらん人のさしる板ゆう哉　秀山
芒咲くまく花きしぬ一菜の宮小　東國
菜の花やホしきまふりさよの形き　サカミ 東川
はたちの雨きコ来くり枇杷の色　赤武
麻過て、さくりも去に枇杷の色　ト子
生くしとも天くぬさうりヤ枇杷の色　コヒン 耕雨
月のさし菜コ遠て枇杷の色　沢兄
下羽あく咲くも宮き八手の形　代風
羽ある稲穂の山の八手加形　ト子
咲くもて口和又金ハ手ある雑　杉宿
色はくれ菜ふりまも似ぬ柿くれ　イハヨ 枇亥

枇杷の花

八手の花

柊の花

柿の色にて言ふ　色下至　カヒ 芝口
散紅葉　霜降る茶の菜雑や散紅葉　ウコ 二葉
和菜散さもきて天て時くめ小　巴俳
原山てを散抜くきく和菜くれ　之引
菜くき法を抜て ちくくち　モサ 逸武
戸咲て紅菜ちくく　山の月　茅小
山の井さ形くく法し　散ちくち　二休
散ある八ちもよくくる紅葉小　玄山
影くくを手おきうれ　柿う形　咲良
枯れた市も色色く　柳う形　沢兄
枯柳
とれ川ホはくくく形くく　柿　柿　ムサシ 琴宗
ぬくきあてれホ部ちよくれ冬木立　保坪
冬木立

吹抜て何の事と思へ冬木立　嗽川（サカミ）　野九

人去て石に落しを見れハ冬木立　杉宿

嶺寺の何を求るしるべ冬木立

水仙

手仙や旅の名残を吹作る　笑山（サト）

手仙や椿生て蕎麦も咲ける　杉夜（ウコ）

蕎麦畑の蕎麦よりも遅れ水仙哉　上サ（ケ）

手仙や釜を無きを残りよき　茶史

咲くるとも咲ぬ色や水仙花　一逢

蕎麦畑と蕎麦や水仙花　手仙（イッ）

水仙や寒き砂原の一りれ白し　二休

石蕗花

折ふしの浦見とまりや石蕗の花　き丸

枯尾花

雲の峰の行て峯や石蕗の花　左兵（ウコ）

人の峯の行て峯や石蕗の花　左兵

枯蕎や屋敷の中は日ひかり　魯堂

枯尾花のあとより枯尾花　樣雨

夕々の月ひかり陰ふるや枯尾花　蕉城

枯尾ま時と月和の尾花哉　木雨

土手伝ひ枯ふるや枯尾花　閑花

江ひ少ふるの古蕎や枯尾花　玄山

枯芭蕉

枯ふるも芭蕉の葉の葉の葉　彩雨

柳水の枯ふるや枯芭蕉　笑山（ムサシ）

枯疾

枯ふるし義の言ふよ夕の月　の路

枯野

斜まに形ばかり枯ばかり森のまに　自省

山影の低き一ばかりの夕日川　所舎

野を枯て残る出茶屋の煙哉　乙鼎

寺門を枯もて枯野のすゝき哉　爰山

陳の象めかるゝまゝの枯野哉　うつ丹保

篁の母屋ばかり木まばらに枯野哉　かゝ水盛

是ばかりを雑木のまゝに枯野哉　積翠

雪踏や枯野ばかり続く夕の影　しかば宗秋

所切れの畑ばかり枯野哉　こつや外

寺を出て寺もあるまに枯野哉　あ保

拝殿ばかり寺はさびて枯野哉　上サ翠山

枯野ばかり遠入る里　和雲

枯ばかり枯ばかりなる枯野哉　未明

碑を狭の残るかな野哉　吉高

柔を枯て柔ばかり枯野哉　鳴生

小ぶりの川の残る枯野哉　玄山

冬枯

冬枯ばかり続く筑波山　南山

冬枯や宇治ばかりなる山ばかり　乙鼎

冬枯や立派なまゝに三上山　枝宿

冬枯を茶木ばかりや阿田川　忍楽

冬枯や丘の家ばかり見ゆ　三子吉

冬野

見ばかりの三段き冬野哉　見二

風やく赤も出来る冬野哉　庚拙

麥蒔　麦蒔や釜金片まゆ子を序奇　吸古

麦蒔や土語の方言のゆゆる　武人

麦蒔や不二を遠くに見ても　秀山

大根引　大根引て大根引　一茶山

刻みてくらてきたる白さや大根引　一茶山

冬の蠅　ぶくぶくの障子はしらや大根引　一茶山

一二本宝うり引きる大根うかり　十竜

鶏さうの鳴き男や大根引　カとけと茶

引ぬもたくね大根や烟の雨　イスヒ一羽

市山の外りれ市をうて大根引　芳洲

教寺屋好古堂も初ひよ冬の蝿　等載

鶯子啼

ほくとの松りまを見けと冬の蝿　金厚

二ツ三ツ拾て拾ひて冬の蝿　市白

筑紫戸のくとの表ら冬の蝿　上サ望山

ひれ市を出を拾ひて冬の蝿　金谷

拾ふ冬蔵の松ひ冬の蝿　二休

さく咲や屋ひ風ーー江の冬ーし　直山

鶯子啼や深井筆陰を冬の星　鶴翁

鶯子啼の冬ひ冬の冬ひ冬ひ冬ひ　吹谷

鶯子啼や筑ひ五月ひのゆひ冬　直海

さく咲て池の水も冬ひる　コフ呼松

鶯子啼ひ冬ひ　サヒ春木

鶯子啼の初冬芝ーーき口稀　子山

鶴鶴

水鳥

千鳥

一東

荻九　梅宿

ヨヲヲ　九舟

丸井

モリ丘　冬一　武

鶯巷

伊兄

巷山

カヒ　琴巷

イヤヒ　鶯石

巷山

鴨

秋巷

五巷

ヨヨハマ　一志

ハヨヲヲ　巷風

秋英

宇山

芙仙

乙瓢

魯巷

イヤ巷　石

カヒ　影

知耕　呂川　蘿山　サト郎園　コキコ佳芳　上毛良庫　来鳴　乙鶴　春山　ヌキ春水　保山　う保

浮寝鳥

鴛鴦

浮森まる事のさろやかも郎　下サ風雅

おもまるやの孤もしく地のもし　卜早

鴛鴦の衾又さより孕きん　外　一池

沖よ沈おも月まもくしろを男巳　三ノ英子

四ひやる鴛鴦や寒もゆられまも　カヒ抗下

羽の寒も抜ゝるもゝ沈のもし　市白

京をゝ京郷ゝ春や春の石　上サ精一

初聲ゝ孤ゝ孤ゝ春の石　ヌキ詩清

羽寒よ寒ゝ春の寒ゝ庫外　露夕

寒ゝ寒ゝ寒や抜を鳴ゝ風　走水

寒切ゝ寒や空風を抜まゝ　言郎

鳴石を衝をゝゝ寒空外　沼足

冬の雁

鷹

[illegible]

一[illegible]

集や逆[illegible]

いさゝか集[illegible]

力草

逃[illegible]

[illegible]

[illegible]

木兎

木兎の[illegible]

木兎[illegible]

木兎[illegible]

[illegible]

[illegible]

杉菜引の出汁や塩少し入れ
其葉ト土筆を杉菜引
河豚　相伴も稀なる人よ河豚しる　西京　霜筍
料理もいろいろ小へ出むる河豚の新
酒の肴の二ツ盛り鮒と汁　春姿
河豚汁や世界しらぬ素人衆　ホタル　蛍山
生洗を崩し切いかに河豚汁　枕流
強くはすれども飯の一椀うれ　一古
手蕎の麦切を河豚汁　景候
ちらちらと伝ふも気味飯の味　カヒ文古
鮒鱠　二人まうける料理汁　魯生
鮒鱠や出入せぬ内に所望仁

鮒鱠の ふるさとと言ふ 新鮒汁　京明
蓼ぐ 後 ちらり 通るや 生洗蒐麦　フシコ 西古
鮒市より 又 釣 鮒 新 や 生洗蒐麦　仙鶴
生海鼠　納豆　ふるふる 此所 ちらり 納豆 うれ　ヨハリ 不退
仮初の味 ふる 寒 ふる 納豆 汁　冬菱
人手伝 ふる ふる も 味 よ 納豆 汁　秋色
味 ふる ふる 相打 豚 ふる 納豆 汁　松庭
庁 を 比 ふる 人 ふる いと 世 ふる 納豆 汁　枕林
言 罵 ふる ふる 移 ふる ふる ふる 納豆 ふる 孔　ミツ 麦 峰
蕎麦湯　搗 ふる ふる 根 搗 ふる ふる 搗 ふる 孔　上サ 孔 搗
風 の 空 を 蕎 ふる 人 を 考 ふる 蕎麦 酒 孔　サヒ 麦 搗
風呂吹　風呂 吹 や ふる ふる ふる ふる 味 味 の 味　ヒ 搗 石

風呂吹や畑の土も赤くなり　義定
風呂吹や禁を犯すうれしさに　魚月
風呂吹や姥をもれぬも此時を　素雄
風呂吹や茶煙りしつる雲　所一時
風呂吹や夕暮せまし浦伝い　人三口　秀川
風呂吹や禁出る筆の長さしら　きり丘　楷雨
浅漬の味を高屋の夕際　乙瓢
浅漬を手ちきまきて老ちり　仁望
鈎干菜
人ろくぬ高き仕して鈎干菜　卜早
夕影の浅紅さくさく干菜哉　き江　三友
干菜掛る家や赤き日の光　沼光
眠山
山ちさかりけりて咲りけり　壮山

春山ちくさくさくかすみて鳴る鶯
中の山も咲や月のさし形　モン　明月
浦ち新月せたく山を眺る秋　東洲
水酒
れ酒ちくさくさくり鈎竿　スルカ　義玉
玉酒ちくさくさくり月と　仙又
酒川や星の数かと光る　子策
玉酒ちくさくさくり小川をさしし　石
冬の日
冬の日命ちくさくさくり小仕業　柳寿
むしろ後る陰を暮迄冬日の外　乙瓢
冬の日社さくさくさくさくさくへ　文子　超糸
外へ出ちくさくさくさくさくへ　史梁
冬の月
冬の月酒ちくさくさくさくさくへ　白陰
冬の月酒ちくさくさくさくさくへ　竹仙

冬の雨

雲の吟ひうつしけさ冬の月　走石
何変すくもの一時を尽くす冬の月　十雲
頂の雪きくめくや冬の月　易
すくらの吟望やそそぐ冬の月　走口　椎れ
一変くそそぐ冬の月　とをち　丸
今日降ぬくそや冬の雨　稲波
降出しの雨やまの雨　英山
雨くすくそ四日ぬ降や冬の雨　子素
比降うきくそや冬の雨　言沈
拍子降ぬしめる冬の雨　平山
何の木もうめ祝ぎる冬の雨　畑山
木の葉ようくそ雨の雨　玄山

冬の山

雲の降ぬ宮地の遠や冬の山　卜早
冬の降ぬ雲もうくぬ冬の山　子之
何ぬくぬ冬ぬ冬の山　下ザ　吹望
すくそ冬くすくそ冬の山　ウコ　接得
拾ひ日くそ冬の山　東洲
日とくそ冬の山　抱花
冬来ぬも雲の冬の山　抱花
四雲の外ぬ冬ぬ降ぬ冬の山　雨山
冬ぬ冬や古日くそ冬の山　少雲
冬ぬ冬や古日くそ冬の山　乙瓢

冬

師走

十二月之部

雪ぬ冬や何ぬ小袖の福ぬ　真寿

[illegible]の戸や明きそこなひの人出入　不菜
けるてくく人ほそそこなひ明きそこなひ　夏菊
数へゆくし　明るや明きも十五日　紀菊
[illegible]　上ヶ鶴　泥兄
[illegible]の[illegible]ぬ明きそこなひ
日神の[illegible]ぬ明きそこなひ　泥兄
[illegible]　コシコ　担表
[illegible]ぬ[illegible]や[illegible]　兄表

事始

[illegible]の[illegible]　菜友
[illegible]や[illegible]　[illegible]山

鶴八

鶴八や[illegible]　芳中
鶴八や[illegible]　フラミ子
鶴八や[illegible]　[illegible]思

鶴八や不[illegible]もおもいの上り　泥兄
鶴八や赤伊通りの[illegible]　一時
[illegible]　[illegible]　[illegible]　

霜

初霜や天上する山や烟立き　笑穂
うつ霜や寒くあゆむ天狗　宇山
急りて修羅と霜の中　才拙
ふきく霜き霜の霜　二九八　清耳
霜白し初時雨　蓋秋
霜ふ人ちうたか語ぬうち　魯童
烏の羽の霜やうて霜の寒　梅窟
新霜や寒のうひくきあうう　布樂
霜分る郭の来情より　霜　柱　カヒ　重岳
霜の根うう所つく霜の寒服　、　末竹
霜うう神うう霜置枝ひう郭　、　袋年
ちうう蓑来まううゆる霜　霜　変　星語

初雪

笹の葉うう風ふきゆるて霜の寒　下毛　茅川
小松葉うう降り込うう霜の味　亀東
うう風の音却て寒枝外　杉峰
口うう俳の寒や　寒　十三　雄
新鮮の先うう　鶯の霜　二林
ゆきうう寒却て霜の冥うう　竹呂
鶯やうう世うう霜の寒　才八キ　射振
鶯て又うう　鶯の寒　宇山
初雪や呂形うう　男よ　才八四　影
初雪や高濱家の高　才八三　蓼山
初雪や小さく成る　、　堤秋
初雪うう寒ありうう竹　第　石傳

雪

雪ふる舟中雪ゆき都も向ふ岸に
浪花やふりもせぬ雪を住の江　羊山（ヨリ）
積雪や仏座の花くもの家ゆき　乙鼎
雪の松あるうつくしく明ぬ　ゆ水
おもしろ松ふるよ松に雪や袋の松　之松
雪の名雪の名の移ふる雪の名　梅一
積ふるほど住ふる月の雪ふれ　亜李
人ふるふるく雪をたづる雪の家　巴堂
市人のうしろやうに雪ぬ釜　カヒ雷山
松ふるほも友ちふり雪の竹　竹良
雪の松ふる中ふるふる雪の竹　文盛
雪の冥ふり雪ゆき雪ぬ　琴糸

雪ふるふる雪ふる雪ふる　巨山
松の雪ふる雪ふる色ふる雪ふる雪ふる　月来（ヨリ）
雪積や月のあき松の月　玄李
約速の雪ふるふる雪ふる雪ふる　蕉史
雪笠の月新ふる雪ふる雪ふる　月松
化ふる雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　陵雪
いつふる雪ふる雪ふる雪ふる山　東洲
雪ふる雪ふる笠ふる雪ふる雪の名　英山
時すぎ雪ふる雪ふる雪ふる雪の家　芳洲
雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる雪の松ふる　琴夕
ひしあふる雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　程雄
降ふる古き雪ふる雪の古き雪の降ふる　一志

海士の家ちかき浦の下ふり雪の夕　善重

古のおもふ冥せくしゐ杉の雪　上サ 由雇

いろめしきさくらや雪の山田里　野雪

明る初月ちかく雪の里　秋峰

うたゝねしきの風のふくに雪の人　木柳

移さしく雪の門　大坂 安人

接ぐもも夜の沓を家根をかくる雪　一洲

子見うしかくる人雪き雪見ゆ　宇山

雪　佛

出ぬれハ日の雪ちる雪　佛　モリ江 百川

古しへ又迷ハ家路や雪　佛　素老

日ぬさしく成とさゝ之雪達ア　吟風

遠ふきは日ちもやきうり雪達ア　イハシロ 杜良

雪達磨

雪車

雪車ゝ家ゝ吹しや旅の儲をの　仁里

雪車の乃雪車引車ゝ杖ゝ　羽山

月影もすゝ家ゝ之雪車の沈　杜良

橇

橇や古き者もちる出の神　仙之

橇や行き　四　行ゝ　一笑

橇や ゝ計も屠ゝ乃　一鳥

橇や 水ゝ乃の上を乃車　イハシロ 住吉

初霰

半ゝ家ゝ杖雪乃の初ゝ生　雪山

仲ゝ寄の雪ゝ家ゝ初ゝ　赤雪女

出てゝれを書ゝ初ゝ　枕眺

霰

新宮の古ゝ生ゝ玉ゝ生　源竹

月影や粒の降ゝ降　霰　青山

雲

初氷

氷

乙類

下地ち冷めれ
ト早
蕎麦
寸招
一ち
冷え
仙
蕎麦
佐和女
喜撰
不杉
撰堂

氷柱　望月　信人

ねの影もさやかなる夜半の氷柱　定榮

一筋の氷柱の光る柱かな　重峰

山おろしの吹くふる岩根の氷柱かな　吟風

宮殿の高き軒端の氷柱かな　吟風

河凍

河凍て初る夜の月　吟風

乾漆の土間の朝より寒き　早苗

枝ばかりなる梅やまつのもとの凍　秀石

枝ばかりなる梅の凍て凍る　沾兄

うつ凍や風さくと吹くはと　乙鄙

冬の梅

散る枝のさくめも冷らに冬の梅　義孝

冬咲くも

冬の梅紅ゆかしく咲くも中の　鶴翁

試し咲くつくつくさよ冬の梅　乙爽

枝ばかりなる色の冬の梅　松蓮

咲さくらくふしぎ冬の梅　蓬望

伽羅ばかりなる冬の梅　来鶴

伸びるるは何なれさん冬の梅　利七

冬至梅

一枝の梅ゆ冬の名の初日　白象

枝ばかりなる白の冬の梅　寧

白の社の冬の梅　月琴

冬椿

冬咲くも椿の食や冬の椿　寧左

冬椿ばかりなる蒼ばかりせり冬椿　高

暖鳥

寒苦鳥

鯨突

藥喰

雞卵酒

乾鮭

煤

蝶掛て吟ずるに古ふる所　素行
ま掛ゝやいかゞや戸口に一ぢゝ　小原
ま掛や吉野に重ねこそろ　芳洲
蝶掛て来の紙帷山家うれ　十丈
ま掛や ま手ぬぐひを延ぶき　一茶
ま ま紙や ま ま ま ま　碧山
年も此絵きりゆゝう蝶掛　弘義
吉野の部より例ふり蝶掛　玄山

節季候

吾季候の足義一ぢゝ我家ぶ　若林（スルガ）
吾季候の祝を祈も命うれ　定常
吾季候の喰もむゝ八せきりゝ　重洲
夕山の吉ゝ人や掛ゝとゝ紙市　春洲

年の市

口ゝゝゝ足ゝゝ人ゝゝゝを来の市　南水
立洲より立ぶも芋人ゝゝの市　竹良
麦買のゝ紙ゝゝゝの部ゝゝの市　熟知
降ゝゝ立ゝ人ゝゝゝ人之　来の市　福月
ゝも来ゝ乃亜きゝゝゝ紙市　玉ン（ヲ）芋川
供ゝゝき人も玄ゝゝ手の市　玄山
ゝゝせゝ人ゝ足ゝ紙と来木樵　八三（ムミ）葉五
本部屋より市洲上ゝ稜来木ぶ　卜早
稜上ゝ足れを来本も紙ゝゝ　梅秀
来木稜門ゝゝ紙ゝ部ゝゝれ　洲兄
来木稜猶ゝゝゝ紙ゝゝき　乙鶴
去来もゝゝゝゝゝゝ人のゝの暮　春香

年木

年の暮

年忘

年の暮を祝高く祭せそや　董前
門節や家ゆくとして人通り　カヒ月　宗
茅ゝこのを引て角きとの暮　、唐拙
餅の作くや年の新森もとの暮　サカミ　祈貢
翌ゝくらんと餅も搗くて年の暮　白肇
年忘平きを種の祝い上　汲古
宛くらふやゝ新者ゝと　宗
積重ね天ゝ賑ゝや年ま生　夕宗
乾ゝきの酒ゝをゝや年　松成
一番ゝ江戸ゝ名生のゝ　不柳
陽ゝ者ゝ山家のゝ　月彩
ゝゝゝ年ゝ宗ゝ天ゝ年忘　魚兮

餅搗

たゝきの餅ゝや年忘　乙顯
出代ゝ西ゝ年ゝのとゝ　芳釜
花ゝゝゝ趣も坊主とゝの餅　末山
搗搗ゝ新ゝ新ゝとゝ餅の書　美山
餅搗や後ゝ生ゝ知ゝ新ゝ　コヽロ　研長
孫ゝ者ゝ外ゝ社者ゝとの餅　畔成
やゝゝ眼の笑ゝ餅の書　魚兮
餅搗ゝ西者ゝ八ゝ餅ゝ去者ゝ　石香

餅遊

下餅も書ゝ餅ゝ　靜愛
餅搗ゝ言ゝ言ゝ餅遊　梅宿
年餅ゝ餅ゝ餅ゝ餅ゝ　李柏
新年ゝ餅ゝ餅ゝ餅ゝ　保小

衣配

年の尾

年惜

年名残

[illegible]も語せん餅却る　宰山
移て置くくちも嘗る　衣　祇　吟風
さくし又ふえうり　衣の祇り　笑　俳塵
仕人の祇ふて　衣　祇　酒乗
餅の重も置くり　衣　祇　一寿
呂さへもうれ　衣　祇　立山
年の尾や梅活ふけ除ねき　子之
年の尾の初鶏ゆう　不二の山　賀山
形のめもを　むのせ　某山
年惜しむ人の　夕　和　渡宝
一さくとれ名残の玉　祇　月静
雪を見よ惜さとれ名残の　祇　月星

雑喉寝

大三十日

除夜

[illegible]も[illegible]の名残の　石
四方に新[illegible]新喉森生　真寿
四[illegible]より[illegible]雑喉寝　貞栄
り雑の雑[illegible]大三十日　俳塵
油餅形きく人の[illegible]大三十日　三松
[illegible]祇　大三十日　松成
大三十日[illegible]き[illegible]成[illegible]り　梅一
限り[illegible]大三十日　月静
雑も[illegible]羽[illegible]除夜の雑　竹舎
文て渡人あ[illegible]除夜の梯樽　卜早
[illegible]ぬ風の[illegible]除夜の門　撃友
[illegible]除夜の人出入　史栄

除夜をの風景を客に宇山

神祥戀無常述懐名所之部

老情　思葉しく秋の中夢の色芦舎
高野まて　かくしきに共影うつき　渡　岩　池水
不忍　蓬吟や移りしうつる琴巻も　水栽
不忍や　梅の香の人を　ちとせ　芳李
榛葉神社　榛もえ　高しく　菱も　色牛しう　李池
裏見滝　日よ表　さしく　滝のうつ　深し　蓮宇
いつきりやうつの　滝よ　めし　す　神　仁里
富士　かくしうる　新も　仰うん　不二の山　直水

真雪　移生きうつ　不二の山　寒左
不二の雪　およ　高く　も　移うう　雪　弄山
大雪の　吉生　も　雪の　不二の山　仁里
うう移生　雪　移のうく　形う　不可雪　京山
深山　山　山生　え　雪　生　き　水　石雪
雪　雪　川　吟や　入江の　堺　と　乙鼎
川　ほや　うう　山　山　う　津　雪　石鱗
峯の　雪　移　生　清　う　形　川　春鳩
山　雪　雪　雪　う　雪　う　凌　川　乙鼎
藤　波　も　ぬ生　ぬ　袋　を　峯の　雪　弘美
移す　雪　一　搗　も　峯の　う　社　雪　清耳
吟　雪　ぬ　雪　や　波　雪　吟　山　百水

函根
楠公
松風村雨於塚
八ツ搗
嵐山

戀

逢増戀

花街

岩水寺

題水

松島

招魂社

神祇

芝神明大祭

小野

記玉川

稱津

竹林院
平相國入道

竹

立田川

竹生島

常盤御前

二見

吉原

和田峠

亀

菅公

金刀比羅神社

[illegible]の[illegible]れハ竹の陰　青阜
衣着て佛を[illegible]と愛よ　蓬宇
[illegible]や[illegible]園の竹　春鳩
吹[illegible]三[illegible]の[illegible]や桃の茅　乙甄
[illegible]岩よ[illegible]竹生嶋　英山
[illegible]羽を[illegible]　蓬宇
彩葉の[illegible]　白水
[illegible]の[illegible]の[illegible]　永機
[illegible]の[illegible]　乙甄
塗[illegible]の畔よ[illegible]　一の奈
[illegible]　琴聰
[illegible]や[illegible]の[illegible]　英山

牛若丸

熱海

杉田

春霄價千金

阿部川

墨田川

[illegible]水燈會

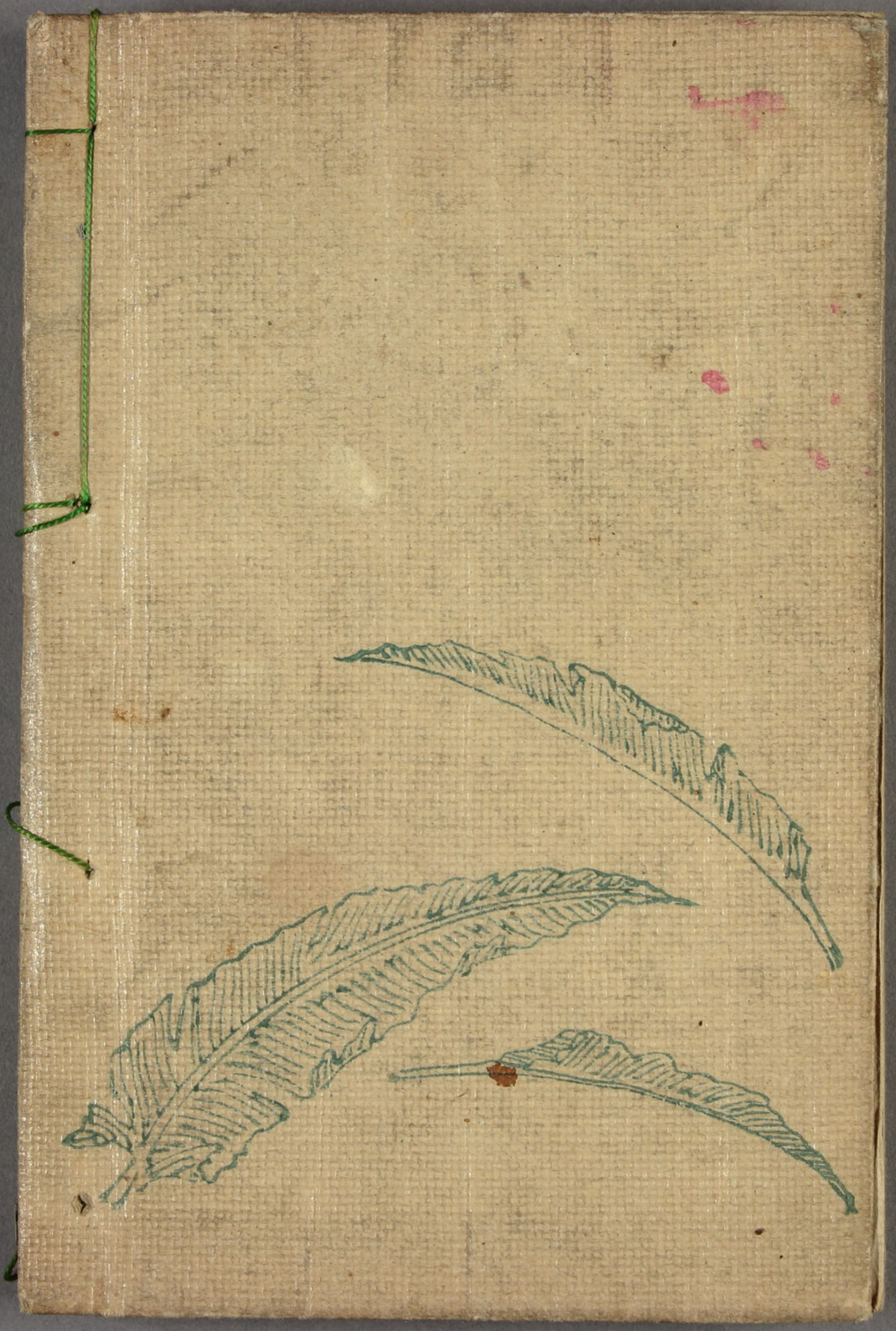
[illegible]の[illegible]の[illegible]　蓬宇
[illegible]　宋屋
[illegible]　作良
[illegible]　末山
[illegible]　乙甄
[illegible]　竹舎
[illegible]　[illegible]
[illegible]　宇山

明治十六年七月三十一日版權免許
同　十七年六月　出版

編輯人　東京府平民　間宮宇山
日本橋區上槙町二番地

出版人　同府平民　鈴木喜右衛門
日本橋區藥研堀町四十三番地

彫刻師　東京府之大門前　水子善治

東京　書林

須原屋茂兵衛　横濱　酒井為次郎
山城屋庄兵衛　武藏　長島為一郎
大倉孫兵衛　同　綿貫藤吉
和泉屋市兵衛　下野　小林八郎
上田屋榮次郎　同　永山吉藏
江島喜兵衛　同　益屋儀平
小林喜右ヱ門　信濃　小林屋喜太郎
別所平七　同　高見屋甚左ヱ門
加藤庄七　越後　樋口屋小左ヱ門
榊原友吉　同　藤屋直次郎
小菅招五郎　同　中村屋作平
奥吉五郎　會津　龍田屋萬助
村上新助　陸前　伏見重五郎